

# 事業報告書及びその付属明細書

2022年度

自 2022年4月1日 至 2023年3月31日

公益社団法人アジア協会アジア友の会

# アジア協会アジア友の会(JAFS)のめざすもの

## I. 基本理念 (Vision)

文化の多様性を尊重し、誰もが生まれてきて良かったと思える地球社会の創造をめざし、以って各自の生命(いのち)の価値を高める。

## II. 基本課題 (Mission)

1. アジアの開発途上地域において人間として最低限の衣食住や教育、生活環境が確保出来ない人々への支援を通して自立へのきっかけ作りを行う。
2. 国際社会に必要なボランティア活動の育成と推進

## III. 基本目標 (Goal)

アジアの善意を結集して地球社会奉仕活動を推進し、以って人間として各自に与えられた生命(いのち)の役割を果たす。

## IV. 基本活動 (Program offered)

1. 国際協力支援事業の推進
2. 国際人的ネットワーク網の確立
3. 日本における良き社会づくりの推進

目次

<b>事業報告</b>			1
<b>I. 開発支援事業</b>			
A. 水事業	1. 井戸・飲料水供給		10
B. 子ども事業	1. 初等教育普及・向上		12
	2. 教育設備・環境整備		
	3. HIV/AIDS 子ども感染予防		13
	4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育支援		
C. 貧困対策事業	1. マイクロクレジット 支援・能力開発	(1)小規模産業育成	15
		(2)職業訓練	
	2. 保健衛生指導・医療	(1)トイレ建設	
		(2)医療支援	
3. 提携 NGO 運営助成		16	
D. 環境事業	1. 植林・水源涵養林養育		17
	2. 環境改善・国際グリーンスカウト		
	3. 再生可能エネルギー資源活用・普及		18
F. ワークキャンプ・視察	1. ワークキャンプ		19
	2. 海外プロジェクト視察		
<b>II. 国際交流事業</b>			
A. 人材交流・育成事業	1. 奨学金支援		20
	2. 海外ボランティア研修制度		
	3. 人材育成事業	(1) アジア・ユースサミット (AYS)	
B. ネットワーク推進事業	1. 国際会議	(1) アジア国際ネットワークセミナー	21
		(2) 国際ネットワーク機能強化事業	
		(3) アジア・フレンドシップ夢基金	
	2. 国際体験交流 (スタディツアー等)		
資料：海外提携団体 AFS ネットワーク			22
<b>III. 災害・紛争の罹災者に対する生活支援事業</b>			
A. 災害等罹災者支援事業	1. 災害等罹災者支援事業	(1) 災害等罹災者支援事業 (緊急支援対応基金)	26
		(2) ネパール中部地震災害復興支援	
		(3) フィリピン台風被災者支援	
		(4) コロナ困窮者支援	
		(5) ウクライナ支援 (国内)	27
		(6) ネパール防災支援	
		(7) ウクライナ支援	
<b>IV. 普及啓発事業</b>			
A. 地域広報活動事業	1. 本部活動	(1) JAFS チャリティプログラム	29
		(2) 国際理解教育講座	
		(3) 国際ボランティア啓発活動	
		(4) アジア文化理解講座	
		(5) 研修生・実習生受入プログラム	
		(6) 法人関連プログラム	
		(7) JAFS 社員クラブ	
		(8) JAFS アジア市民大学	
		(9) 第3回日本語スピーチコンテスト	
		(10) JAFS SDGs セミナー	
		(11) JAFS 日本語サポート	
		(12) 大阪マラソン チャリティ団体活動	
		(13) 「水」写真コンテスト	
		(14) 関連プログラム/その他団体協力	
	2. 地区活動	(1) 会員拡大・地区活動推進委員会	33
		(2) 地区世話人一覧	
		(3) 第1エリア	
		(4) 第2エリア	
		(5) 第3エリア	
		(6) 第4エリア	
3. 広報	(7) 第5エリア	34	
	(8) 第6エリア	35	
4. プロジェクト支援会	(9) 第7エリア	36	
	(10) 第8エリア	37	
	(11) 第9、10エリア		
5. 関連市民活動	(1) アジアネット	37	
	(2) ホームページ/フェイスブック	38	
B. 環境保全・環境教育(国際グリーンスカウト活動)	各ファミリーグループ・支援会	41	
	(1) 関西ナショナル・トラスト協会		
	(2) 日本を良くする会		
			42
			42
<b>V. 運営管理</b>			
A. 社員総会			45
B. 役員一覧			
C. 理事会			
D. 常置委員会			
<b>事業報告の付属明細書</b>			48



## 2022年度 事業報告

2022年度は、支援活動の継続の必要性がさらに増す中、新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)による影響や制限が続き、国内での普及啓発活動実施を事業計画に通りに行う困難さを背負いながらも可能な範囲で実施し、公益目的事業種毎に工夫し、活動をおこなった。

2019年の40周年後のさらなる10年を見据えた中期計画を策定し、3年を徐走期間として考えていたが、その間が、コロナ禍という予想外の事態のもとで足踏み状態となった為、新しい試みとして、大阪マラソンのチャリティ団体となりファンレイジングに役立てた。また、役員改選に伴い、36名の役員全員が事業担当をもつ体制の整備により、事業の前進しやすいつながりになった。それに伴い、前年度実施が不可能であった事業の実施につながった。

昨年度末からのウクライナ侵攻による世界平和の揺らぎに対しては、アジアとも関係する問題であると考え、在留ウクライナの世話人と連携を取りながら、ウクライナ避難民の方々が必要とする支援を行うと共に、アジア各地のネットワークからの関心を引き起こすことにもつながってきた。

運営面では、国内活動に各種の制限や、在宅勤務体制導入による安全対策を講じながら、理事会の各運営委員会が、それぞれの工夫と努力により着実に事業実施した。また、規程の整備を実施し、NGOとしてのアカウンタビリティの重要性により、アカウンタビリティセルフチェック(ASC)2021を行い、運営全体を見直す機会とした。

以下、活動概略を事業別に報告する。

### I. 「開発支援事業」

当事業に関しては、各国のコロナ拡大防止のための規制やその影響による経済悪化により停滞した活動もあったが、規制緩和後は特に「開発から取り残された人たちが抱える課題が露呈し、その解決を進めると共に、基本支援事業、水、教育、貧困対策、環境の4項目(詳細は下記)の実施により、現地地域の自立支援活動を支えた。

### II. 「国際交流事業」

当事業に関しては、コロナ禍にもかかわらず、アジア地域間において、活動の取り組みに対する相互連帯感の強化、励まし合いの重要性を認識することが出来、それによって、国際ネットワークの重要性を確認することが出来た。依然対面実施が不可能なアジア国際ネットワークセミナーは、会場をPC上に変え、オンラインにて各国現地NGOスタッフが一同に会し、共通課題を認識すると共にAFSネットワークの果たす役割を確認することができた。

### III. 「災害等罹災者に対する生活支援事業」

当事業に関しては、コロナ感染の影響による生活困窮者や困窮地域に対しての支援が重要な状況となった。また、3月におきたロシア軍によるウクライナ侵攻に対して、アジアではないウクライナへの支援を当会として実施するか否かを議論したが、世界的な平和問題であると共に、ウクライナの支援がアジア全体にもつながり、貧困拡大を防ぐために重要な意味があると考え実施することとなった。継続しているネパール地震復興支援事業では、防災力強化事業を第2フェーズとして実施することとした。

毎年のように発生するフィリピンの台風に対しては、昨年度の復興支援と合わせ今年度の台風パエンにて罹災した被害者への支援活動を行った。また、今後緊急支援が必要となった際に、速やかに対応するために、「緊急支援対応基金」を設けることにした。

### IV. 「普及啓発事業」

当事業に関しては、日本国内のコロナ感染状況に伴い引き続き活動を制限せざるを得ない時期もあったが、徐々に対面による活動やイベント実施は工夫をして再開するようになった。委員会毎の活動や会員活動に関しては、工夫や努力により、本会の広報と支援事業に関する普及啓発が実施できた。

多文化共生社会が求められる昨今、事務所周辺にも多くの外国籍の住民が増えていることを受け、小学校で日本語を教えることを中心とした日本語サポートチームを新設し活動を開始した。オンラインを活用することにより臨場感を出来るだけ感じるイベント開催をするなど、理解促進に努めた。その他、内外の関連機関との連携がコロナ禍により一層深まり、NGO/NPO 活動の社会への広がりにも貢献することができた。

## 「運営管理」

「運営管理」に関しては、社員総会、理事会はオンライン参加を通常化し、遠方者や対面参加不可能な場合も出席できる環境を整え、安全危機管理を行いながらガバナンス・コンプライアンスルールを維持し、組織基盤の強化と経営の透明化を果たした。理事の事業担当制を導入し、運営強化をおこなった。また、アカウントビリティの透明性を明確にするために、アカウントビリティセルフチェック(ASC)2021(国際協力NGOセンター提供の診断ツール)を実施した。

活動詳細について、以下のとおり報告します。

## I. 公益目的事業 1 開発支援事業

### A. 『水事業』 - 安全な飲料水供給をめざした井戸建設支援事業 -

#### 1. 井戸・飲料水供給

2022 年度は、アジア 5 カ国(インド(1)、カンボジア(7)、スリランカ(7)、ネパール(18)、フィリピン(10))の農村 27 ヶ所に 43 基の井戸又はパイプラインを完成することができ、水くみに長時間労働を強いられていた人々が水へのアクセスが容易となり、生活環境の改善、コロナ等の感染予防や疾病予防等の衛生環境の改善を行うことができた。

本実施により累計 2,254 基の井戸をアジア各地に贈ることができた。

### B. 『子ども事業』 - 貧困層の子どもたちの生活向上を目指した各種支援事業 -

#### 1. 初等教育普及・向上事業(インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピン)

教育里親制度(就学資金の提供)により、上記 5 ヶ国の就学生 265 名に教育支援を行った。コロナ感染拡大防止のための休校措置の解除は国・地域により差があったが、再開後も子ども達が教育を受けることができる環境の維持や運営のために支援を実施した。特に休校措置の影響で落第者が多く、その子ども達への継続支援が重要となった。

#### 2. 教育設備・環境

- ネパール:ナワルプル郡の学校校舎 1 棟の建設を実施する予定であったが、政府認定の設計図による建設ルールにより予算が変更となり、実施を延期することとした。
- ラオス:ブンヌア郡公立中学校の寮 1 棟の建設は着工し、次年度完成の予定。
- バングラデシュ:老朽化した 10 校のトイレ再建支援を行い、子ども達が利用できるトイレが整備された。

#### 3. HIV/AIDS 子ども感染予防

- インド:タミルナードゥ州のディンディガル、ナマカル 2 県の HIV/AIDS の子どもおよび、家族 2 世帯に生活補助と教育支援を行った。

#### 4. 栄養改善とストリートおよび、スラムの子どもたちの保護・教育支援

##### (1) 栄養改善(ネパール)

タライ平野の低所得地域のピトゥリ村スリーサンティ小学校生徒 150 名に対して、卵と牛乳の給食支援を実施し、子どもたちの栄養状況改善を行った。

栄養士育成の対象者 2 名が日本での栄養士過程の学びのために来日し、日本語学校での学習を行った。他 1 名は次年度 4 月より大学院栄養学研究のための日本留学が決定した。

(2) ストリートおよび、スラムの子どもたち支援(インド、フィリピン)

- インド:マハラシュトラ州ナグプール県のスラムの子どもたち 30 名を対象に、就学サポートのための学習補講をおこなった。
- フィリピン:マニラのストリートやスラム地区及び郊外の移住地に暮らす子どもたち 96 名への教育支援をおこなうとともに生活習慣・衛生環境改善等の啓発プログラムを実施した。

C.『貧困対策事業』-自助自立を目指して、収入・雇用を生み出す諸プログラムの推進及び指導-

1. 小規模産業育成・職業訓練

- インド:マハラシュトラ州アムラワティ県の農村の女性グループを対象にした養鶏事業は、コロナの影響により実施出来なかった。
- カンボジア:タケオ州の村の小規模零細事業への資金提供により農村世帯の所得向上を目指したが、コロナの影響により地域状況が悪化し、実施を見送った。
- ネパール:シンドゥパルチョーク郡インドラワティ村の農業振興活動の継続にむけて、村内において人材育成を行うために、農業専門高等学校への奨学生 1 名を選抜し 6 年間コース 3 年目支援をおこなった。同時に、馬を利活用したモデル農業を実施した。
- フィリピン:ソルソゴン州の農漁村の所得向上をめざし、マングローブ保全区域をまもるために、植樹地の整備や育苗を実施。農村地域の生活困窮者の収入向上をめざし、として有機肥料による土壌改良や養殖池の設置、現地研修を行う農園が完成し研修拠点ができた。
- フィリピン:アンティーク州パンダン町の障がい者をコロナによる失業などからまもるための活動を実施。IDカード発行により生活物資割引制度へのアクセスを確保し、卒業した障がい児童の自立を目指した再生プラスチックエコブリック製造を支援した。

2. 保健衛生指導・医療

- インド:マハラシュトラ州ムスカ村の病院運営を支援。看護師 1 名の常駐、医師 1 名の週 1 回派遣により、定期診療できる体制をつくり、住民が常に診察を受けることができる運営支援を行った。
- ネパール:シンドゥパルチョーク郡で農村地域の女性に対し健康維持できるように生理用ナプキンの活用をすすめる、地元でナプキン制作し普及を目指すため、女性 15 名に製作講習を行った。

3. 提携 NGO 運営助成

本会の現地提携団体の運営管理強化の為に、インド(RUDYA)、カンボジア(KAFS)、スリランカ(SARVODAYA)の運営支援と活動強化を行った。

D.『環境事業』- 自然環境保全、及び再生に必要な諸活動の支援 -

アジア 5 カ国において 10,497 本の植林を実施した。地域の森林減少への歯止め、そして農業により生計を立てている農村地域の持続性に繋げる環境整備を行った。詳細は以下の通り。

1. 植林・水源涵養林養育支援

- ネパール: シンドゥパルチョーク郡インドラワティ村にて、コーヒー栽培による緑化及び地域産業づくり事業を実施。日陰樹 1000 本とコーヒー苗 2,000 本の植樹とコーヒー苗の育苗 10,000 床を行い、その為に日本人専門家による研修をおこなった。  
(令和 2 年度および令和 3 年度「緑の募金」公募事業)
- バングラデシュ:ボリシャル県・ガジプール県・ネトロコーナ県・ジャマルプール県のノンフォーマル教育を受ける学校の子どもたちへの環境教育と緑化活動を目的に、4校で 3,347 人が学校とその周辺にジャックフルーツの苗木 3,347 本を植林し、地域の緑化をおこなった。  
(2022 年度「連合・愛のキャンパ」中央助成事業)
- フィリピン:アンティーク州パンダン町の水源地森林保全のために苗木づくりと植林 1200 本を実施し

た。

- スリランカ:ラトナプラ県の 2 地区にて果樹等 200 本を植林し、青少年が育成に携わる活動を推進した。

## 2. 環境改善・市民による環境保全活動(国際グリーンスカウト運動)

1986 年に発足した本会提唱の環境保全市民運動(通称、グリーンスカウト運動)は、現地提携団体を中心に様々な地球環境保全活動が 4 カ国で行われた。

- ネパール:シンドゥパルチョーク郡インドラワティ村のゴミ問題を解決するために、環境ジュニアリーダー及び地域リーダーが分別のゴミ処理の講習を受け、焼却炉兼ゴミ箱を 40 カ所に設置した。  
(りそなアジア・オセアニア財団環境プロジェクト助成事業)
- ネパール:小学生の環境セミナーがコロナの影響で実施できなかったが、3 カ村 4 校にて 3R 活動、地域及び学校清掃美化活動、植林活動などのグリーンスカウト運動推進をおこなった。
- フィリピン:シバロン市で環境学習や清掃活動を行い、グリーンスカウト運動を推進した。
- フィリピン:マトノグ町で、地域環境保のためのゴミ管理に取り組んだ。有機ゴミ活用による堆肥生産、ゴミ箱 41 ヶ所設置と環境学習や清掃活動を行い、グリーンスカウト運動を推進した。  
(TOTO水環境基金助成事業)
- スリランカ:学校を拠点に環境学習や清掃活動に取り組み、グリーンスカウト運動を推進した。

## 3. 再生可能エネルギー資源活用支援事業

ネパールにおいて、森林破壊の歯止めと薪の代替燃料確保のため牛糞発酵によるバイオガスの普及を実施。シンドゥパルチョーク郡に新たに 15 世帯に 15 基のバイオガスプラントを設置した。この 15 基により新たに薪の使用量を年間当たり約 38.4 トン削減でき、75 トンの二酸化炭素排出を抑えることにつながった。  
(りそなアジア・オセアニア財団環境プロジェクト助成事業)

## F. ワークキャンプ、プロジェクト視察

ワークキャンプはコロナの影響により全て中止。アフターコロナに向けて現在実施可能な活動の相談会を各関係団体と実施した。プロジェクト視察に関しては、ネパール 5 回、インド 1 回、カンボジア 1 回の視察を実施した。

## II. 公益目的事業 2 国際交流支援事業

### A. 人材交流・育成事業

#### 1. 奨学金支援

- 将来の本会のネットワーク事業を担う各国各部会の職員の研修、育成のために奨学金支援を行っている。フィリピンのアジア社会科学院(ASI)の地域開発コースがコロナ禍の中、オンライン開催のため対象者無く奨学金支援を行わなかった。
- インドの HDSI が持続的な活動をするために HDSI の後継者 1 名のバラティヴィディアピート大学院社会開発修士課程 1 年目の奨学支援を行った。

#### 2. 海外ボランティア研修制度

コロナウイルス感染状況を鑑み、募集を行わなかった。

#### 3. アジア・ユースサミット(AYS)

昨年度実施した、第 7 回アジア・ユースサミット「地域を良くするプロジェクトを創ろう - コロナ禍で私たちにできること」のその後の高校生実施事業確認を行った。アジア各地で高校生たちがコロナの制限の中、可能な形で活躍をしていることが確認できた。



## B. ネットワーク推進事業

### 1. 国際会議

#### (1) アジア国際ネットワークセミナー

第30回アジア国際ネットワークセミナーをスリランカにて予定していたが、今年度もコロナ感染拡大のため中止した。その代替として AFS スリランカがホストとなり 10 月 1 日に 10 ヶ国 57 名が参加したオンライン会議を行い、コロナ禍における各国のチャプターの近況報告と情報交換を行なった。

#### (2) 国際ネットワーク機能強化事業

アジア国際ネットワーク事務局の強化と、それに伴うアジアにおけるネットワーク強化を推進した。

#### (3) アジア・フレンドシップ夢基金

貧困なきアジア社会の実現を目指して発足したアジア草の根の自立・連帯基金。アジア 8 カ国が参加している。2022 年度も、募金のための世話人会を設けて、「夢基金」という名目で国際基金募金に協力した。

### 2. 国際体験交流(スタディツアー等)

新型コロナウイルス感染症の影響により、実施しなかった。

## Ⅲ. 公益目的事業 3 災害罹災者に対する生活支援事業

### 1. 災害等罹災者支援事業

#### (1) 災害等罹災者支援事業(緊急支援対応基金)

緊急支援が必要な災害等が起きた際、迅速に初動対応(初動調査含)ができるための資金を確保するために、緊急支援対応基金を設立した。

#### (2) ネパール中部地震 災害復興支援

地域復興の為に 2019 年度より 3 年間かけて設置し完成した揚水システムにより、シンドゥパルチョーク郡インドラワティ村 10 地区全体が世帯毎で給水設備を整え、今年度は 182 世帯に設置が完了した。

#### (3) フィリピン台風被災者支援

2021 年度の大型台風ライの被災地パナイ島アンティーケ州の南側、海沿いの地域を対象に、引き続き、支援物資の配布、家屋が倒壊被害を受けた 50 世帯の復旧や補強、再建支援をおこなった。

今年度 10 月の大型台風パエンによる被災地パナイ島アンティーケ州の西側の罹災者に対して、被災直後は食料品等の緊急支援物資配布を約 550 世帯へ、その後は学校での食事提供や学用品支援を約 300 人へ、家屋倒壊世帯への修繕・建材支援を約 100 世帯におこなった。

#### (4) 新型コロナウイルス感染症(コロナ)困窮者支援

十分な収入を得ることができない生活困窮者支援と、学校の再開後の運営を支えることが重要となり、3 カ国3提携団体を通じて支援を実施した。

#### (5) ウクライナ支援(国内)

ウクライナ侵攻より避難してきた人たちへ生活資金の支援、生活物資の頒布会の実施、米や日用消耗品物品支援など、異国での生活が長引く中で、心の安定の一助になる支援を行った。

#### (6) ネパール防災支援

シンドゥパルチョーク郡インドラワティ村にある区、12 区全ての防災力の強化を目的とし、2015 年の地震の震源地にも近く、主要道路から隔絶された農村型自治体において、自然災害により孤立した際にも自立した地域となる支援、「シンドゥパルチョーク郡の農村型自治体における防災力強化事業」を R4 年度日本 NGO 連携無償資金協力との共同により開始した。

#### (7) ウクライナ支援

爆撃によって一部機能を失ったスームィ州トロスタネツカ市立病院の外科機能を取り戻すことに

より、負傷した人々の手当、爆撃により負傷した人たちの治療およびリハビリテーションを実施し、日々の健康の為に共に、負傷した人たちが速やかに治療を受け回復できるための医療機関として整える支援活動を「スーミ州トロスタネツカ市立病院の外科エリア再建支援と市民の越冬のための防寒着支援事業」R4年度日本 NGO 連携無償資金協力との共同により開始した。

#### IV. 公益目的事業 4 普及啓発事業

##### A. 地域広報活動事業

###### 1. 本部活動

###### (1) JAFS チャリティプログラム

本会の活動に様々な形で一般市民に加わってもらえるようチャリティ企画を行った。恒例の春と秋のJR住道駅前(大阪府大東市)の JAFS チャリティバザールは雨天のため中止した。また「アジアン・チャリティフェスティバル」は 7 年目を迎え、公益財団法人大阪国際交流センターとの 4 度目の共催で開催。コロナ感染予防を図りながら、お弁当や飲食の出店も復活して開催した。映画上映会や、対談、歌唱やダンス、ゲームなどによる交流を実施し、多文化共生の観点から在関西のアジア系市民との交流を深めるチャリティイベントとして 231 名の参加者があった。その他、それぞれ各地区活動の支援趣旨のもと、チャリティイベントやコンサートを実施した。

###### (2) 国際理解教育講座

国際理解教育に関する講義を小学校、高校、大学、企業にて実施。幅広い社会層の人たちへの国際理解推進につながった(講師派遣のべ 12 ヶ所、参加生徒・団体員数 693 名)。

###### (3) 国際ボランティア啓発活動

JAFS ぞうすいの会や地区活動にて、適宜、海外プロジェクト報告を行い、プロジェクト理解の促進やアジア社会の現状の理解につなげた。

###### (4) アジア文化理解講座

日本に住むアジアの人々と共に、異文化理解講座等を実施し多文化共生社会の実現を計画していたが、コロナの影響により、多くのプログラムが中止または延期とした。

###### (5) 研修生・実習生受入プログラム

大学生の個人応募による 3 名、が本会での活動を通じて、国際協力団体の活動内容及び市民運動体の運営に関して学んだ。

###### (6) 法人関連プログラム

3 年ぶりに法人賛助会主催で日本銀行理事・大阪支店長である高口博英氏によるセミナーと交流会を 5 月 20 日に実施し 29 名が参加。関西経済の現状と展望を学び話し合った。

###### (7) JAFS 社員クラブ

3 年ぶりに「社員クラブ」を 2 月 3 日に新年会として開催し 31 名が参加。村上事務局長より創設の思いとボランティア活動の意義についてお話いただき、お互いの交流を深めた。

###### (8) JAFS アジア市民大学

政治・経済・自然・社会・文化など多角的に一味違うアジアを探求する場として、2019 年 1 月に開学。今年度はコロナ禍により延期された第 3 期の第 10-12 回と第 4 期第 1-11 回の合計 14 回の講座を実施した。専門的視点からアジア個々の国の文化理解に向けた講義と相互交流が行われ、14 回で延べ 291 名が受講した。

(9) 日本語スピーチコンテスト

アジアと日本の絆を深める活動の一環として、第3回日本語スピーチコンテストを10月に開催し、13名の留学生が出場、聴講者51名が出席し、3名の留学生が最優秀賞、優秀賞、奨励賞、観客賞を受賞した。

(10) JAFS SDGsセミナー

サステナブルな未来のために、私たちができることを共に考え行動につなげる機会とするために、～私たちの暮らしから考えるSDGs～ オンラインセミナー第2弾を2022年2～5月に5回シリーズで企画。その内2022年度内に2回実施した。

(11) JAFS 日本語サポート

2022年6月より、大阪市西区の小学校にて、外国にルーツがある児童で、日本語指導が必要な児童を対象に、日本語サポート活動を開始した。本年度の対象児童は9人、学校生活や授業、日本での日常生活に少しでも馴染めることを目指してサポートを行った。

(12) 大阪マラソン2023 チャリティ団体活動

大阪マラソン2023のチャリティ団体へ申し込み申請を行い、初めて採択された。JAFSの広報活動とファンドレイズのため、チャリティーランナー12名を一般より募り、ファンドレイジングを実施。当日の応援を含め広報活動を実施。ネパールの小学校への水設備建設の実施に役立てた。

(13) 「水」写真コンテスト

3月22日の世界水の日に伴い、「水」写真コンテストを開催。第1回「水」写真コンテストは国内外から24点の応募作品があり、5月に審査を実施した。第2回「水」写真コンテストでは、応募総数192点の中から、1次審査を通過した20作品が阪急うめだ本店 祝祭広場にて展示(2023年2月16日～2023年2月27日)し、一般投票によってそれぞれ上位5作品を選出した。

(14) 関連プログラム/その他団体協力

関係団体と連携の中、理事、評議員、運営委員、講師として協力。関西のNGO活動の推進のため、関西NGO協議会(KNC)の理事(副代表)、国際協力NGOセンター(JANIC)の理事、関西国際交流団体協議会は監事として関わり、各ネットワークNGOを通して市民組織活動の社会意義を広げる活動及び政府を始めとした公的機関との連携に関わる。加えて関西の国際協力祭典“ワン・ワールド・フェスティバル”は実行委員会メンバー、ユース世代のための国際協力フェス“ワン・ワールド・フェスティバル for Youth”には運営委員として協力した。その他多くの関係団体との繋がりの中で本会の活動の更なる推進と関西最古のNGOとしての役割を担った。

## 2. 地区活動

本会の活動がより多くの人たちによって支援されていくためには、様々な地区活動が必要で、地区世話人を中心に広報、ぞうすいの会、ウォークソン、コンサート等が企画されたが、今年度もコロナ感染拡大のため、いくつかのイベントは中止を余儀なくされた。一方、各地区会ごとに会長・副会長・事務局長・書記からなる組織をさらに整え、1月14日に地区会長会を実施したほか、会員拡大・地域広報活動委員会を9月から2月にかけて合計6回開催、延べ51名が参加し、今後の会員拡大に向けて様々な方策を議論した。

## 3. 広報

### (1) 機関誌

会報「アジアネット」を年4回(各4,300～4,500部)発行し、支援者に送付して事業報告と海外情報などを提供した。新規の支援者を増やすべく、全国の国際関連施設の情報コーナーなど公開スペース向けにも送付した。ホームページ上でも広く公開した。

## (2)ホームページ・SNS

ホームページでは、年4回発行の会報よりも細かな時間スパンでタイムリーに情報を発信した。特に本会のイベント情報やニュース、寄付募集など、発信に迅速性を要する記事を逐次掲載した。フェイスブックやインスタグラムなどのSNSやYouTubeによっても、本会の活動状況、ニュースやイベント情報などを、随時発信した。これら不特定多数への情報発信により、新規の会員・寄付者・イベント参加者の獲得にも努めた。

## 4. プロジェクト支援(支援会・ファミリーグループ)

各支援会、ファミリーグループなど17グループが様々なイベントやチャリティ活動を実施し、本会の支援事業の応援を、コロナ感染対策を講じながら精力的に展開した。

## 5. 関連市民活動

関西ナショナル・トラスト協会、日本を良くする会の活動もそれぞれの設立趣旨の下、活動が行われた。

## B. 環境保全・啓発教育事業

### 国際グリーンスカウト活動

#### (1)「土と水と緑の学校」

第37回「土と水と緑の学校」を和歌山県新宮市にて8月5日～10日に開催する予定であったが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。

#### (2)国際グリーンスカウト国内活動

本会が提唱した国際グリーンスカウト(“Clean & Green”の標語の下で、地球環境保全を地域で推進する)活動として、アジア各地のグリーンスカウトメンバーが活動を行っている。地域活動にリンクさせながら活動を実施している。吹田部会は、毎月1回例会と糸田川清掃活動を実施し、年間で57キロのゴミを収集した。日本とアジア諸国が共にプラゴミ問題に取り組む“AFSブルーオーシャンレンジャー”活動では、4月16日に国内16都道府県の海辺で、11月19日には日本・フィリピン・インドネシア3ヶ国6地域の海辺などで、同時帯にクリーン活動を行った。併せてオンライン交流を行い、各地域の活動の様子を、国を越えて動画や写真で紹介し合った。

## 運営管理

第11回定期社員総会を6月11日に実施した。本年度は臨時理事会を含め5回(5月、6月、9月、12月、3月)の理事会を開催、事業や運営の課題について話し合った。それに伴い、各常置委員会においても、コロナ禍で活動制約中でありながら適宜委員会を開催し、運営管理をおこなった。

- ・公I(開発支援事業)委員会(委員長 福澤 邦治)

:5月、9月、12月、2023年2月 計4回

- ・公II(国際交流)委員会(委員長 西田 貞之)

:10月、12月、2023年2月、3月 計4回

- ・公III(災害罹災者に対する生活支援)委員会(委員長 松原 正)

:9月、12月、2023年3月 計3回

- ・公IV(国際協力に対する理解を深め、支援を得るための普及啓発事業)

1. 広報企画委員会(委員長 法花 敏郎)

:4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、2023年1月、2月、3月 計12回

2. 会員拡大・地域広報活動委員会(委員長 米田 明正)

:9月2回、11月、12月、2023年1月、2月 計6回

地区会長会1月 1回

3. 企画事業委員会(委員長 沖田 文明)

:4月、5月、7月、9月 計4回

4. 国際理解・文化事業委員会(委員長 實 清隆)  
:5月、9月、12月、2023年3月 計4回
  5. SDGs活動委員会 (委員長 暮部 恵子)  
:9月、12月、2023年3月 計3回
- ・特別委員会
- 1 政策審議委員会(委員長 宮野谷 篤)  
:9月、11月、12月、2023年2月、3月 計5回
  - 2 経営企画戦略委員会(委員長 米田 明正)  
:8月、12月、2023年3月 計3回

法人管理部門

総務財務委員会(委員長 櫻井 紘哉)

:4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月、2023年1月、2月、3月 計11回

- ・当会規程の整備(倫理規程、公益通報者保護に関する規程、利益相反防止に関する規程、リスク管理規程、コンプライアンス規程)
- ・アカウントビリティーセルフチェック(ASC)2021の実施

それぞれが今年度も公益法人としての、ガバナンス、コンプライアンスルール強化を行った。

以上、2022年度の事業報告の概要を報告いたします。

# I. 開発支援事業

## I-A. 水事業

### 1. 井戸・飲料水供給

(2023年3月現在)  
(パイプライン・貯水タンクを含む)

国名	2022年度完成	累積
インド	1	504
インドネシア	-	45
カンボジア	7	487
スリランカ	7	151
タイ	-	88
中国	-	1
ネパール	18	310
バングラデシュ	0	175
パキスタン	-	8
フィリピン	10	437
ブルキナファソ	-	1
ミャンマー	-	26
ラオス	-	21
合計	43	2,254

#### ●インド

<b>BSVIA カルナータカ州</b>	<b>1基</b>
ポンプ式井戸	1基
ビジャヤプル県ダルワッド地区イブラヒムプル村	

#### ●カンボジア

<b>KAFS タケオ州</b>	<b>7基</b>
露天式井戸	7基
トリアン郡クバブ地区ドゥンブー村(5)	
トリアン郡クバブ地区プレウスレイ村(2)	

#### ●スリランカ

<b>SARVODAYA 北中部州</b>	<b>5基</b>
露天式井戸	5基
ポロンナルワ県ランカプラ地区リファイブラ村	
ポロンナルワ県ランカプラ地区ガムヌプラ村	
ポロンナルワ県タマンカドゥワ地区モナラタンナ村	
ポロンナルワ県ランカプラ地区タラパタルワ村	
ポロンナルワ県タマンカドゥワ地区シンハブラ村	

<b>SARVODAYA 東部州</b>	<b>2基</b>
露天式井戸	2基
アンパーラ県マハオヤ地区ピヤサラガマ村	

アンパーラ県マハオヤ地区フォースブリッジ村

#### ●ネパール

<b>AFS-ネパール ネパール全域</b>	<b>18基</b>
パイプライン敷設	1式

ネパール シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P.  
Word No.11 ニューパネタール地区パルパカール小学校及び集落  
※大阪マラソンでのチャリティ活動により支援

ポンプ式井戸	3基
ガンダキ・プラデーシュ(第4)州 ナワルプル郡カワソティ市 第13区ゴイリガウン ナヤバスティ	

簡易水道付パイプライン式井戸	13基
バグマティ県シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P. Word No.10 マチロガウン(2)、レイリー集落(6)、 ネバナ(2)、ダダガウン(3)	

共有水場付パイプライン井戸	1基
バグマティ県シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P. Word No.9 シパタール (1)	

#### ●フィリピン

<b>KALIPI スエバエシハ州</b>	<b>8基</b>
ポンプ式深井戸	8基

サンアントニオ市 サンフランシスコ村 シティオバサンガン  
リャネラ町 サンフェリペ村 シティオ ナラニアグ  
リャネラ町 プラリデル村 No.1 ブロック  
リャネラ町 バグンバヤン村 シティオ カビアオ No.1  
リャネラ町 バグンバヤン村 シティオ カビアオ No.2  
ハエン市 マグサリシ村 シティオ ポルトウリー  
サンレオナルド市 デイバージョン村  
シティオ パトゥビグ ブロック1  
ペニャランダ町 サンマリアーノ村 ブロック3

<b>AFS-UMD ソルソゴン州</b>	<b>2基</b>
簡易パイプライン式井戸	2基

マトノグ町ゲナブランオキシデンタル村  
マトノグ町カリンターン村

建設中の井戸	18基
--------	-----

インド	3基
カンボジア	1基
スリランカ	0基
ネパール	7基
バングラデシュ	2基
フィリピン	5基





インド ビジャヤプール県に完成した井戸



ネパール タライエリアに完成した井戸



カンボジア 完成した井戸に集まる村人たち



ネパール 大阪マラソンの支援で完成した学校の水道



スリランカ 宗教や民族の壁を越えて使用される友好の井戸



フィリピン ネエバエシハ州に完成した井戸に喜ぶ村人



## I-B. 子ども事業

### 1. 初等教育普及・向上

#### (1) アジア里親の会

子どもたちの健全な育成に必要な教育。そして、子どもたちは教育を受ける権利があり、大人はそのための環境を整えなければなりません。しかし、アジア地域では経済的理由や教育を受けることが困難な状況により、今なお学校に定期的に通えない子どもたちが多くいます。本会では、一人でも多くの子どもが、就学により基礎的教育を受けることができるように、インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピンの子どもたちを里子、日本側支援者は教育里親として教育里親支援を行っている。

近年、就学適正年齢での入学者の向上、女子教育に対する理解は改善されつつあるもコロナによる経済困窮や経済発展が目覚ましいアジア諸国多くにおいて途中退学が増加している。生活を支えるために働くことを選ぶ子ども、選ばせる親が増える。しかし、最終的には貧困のサイクルから脱出できないことが多く、就学継続により、知識や思考力を養うことが、将来を築く力となることへの理解促進や啓発が必要である。

また依然として教材不足、低質な教育内容、教員不足など多様な問題・課題があり、その改善には地域(コミュニティ)を巻き込んだ学校教育の確立を行っていく必要性がある。

本支援では、里子の学費や学用品、彼らが通う教育施設の運営を支援。同時に里親と里子の手紙を通じての相互交流を行った。2022年度は277人の里子を支援。里親の存在が里子たちの心の支えになり、学習への意欲や将来への希望を見出すなど、良好な方向に導くことに繋がっている。コロナウイルス感染症拡大を避けるために長期間の休校が解除された今年は、学校の運営が不安定な中、里子・学校側両方へ大きな支えとなった。

アジア里親の会 里親決定状況 (2023年3月現在)

国名	2022年度里子数	里子累計数
インド	70	467
カンボジア	21	246
ネパール	129	294
バングラデシュ	32	278
フィリピン	25	35
合計	277	1,320

#### ●インド

##### **BSVIA 教育支援事業** 45名

【カルナータカ州ビジャプーラ県ブルナプール村】

アジア里親の会の支援を通して、日印友好学園コスモニケタンの教職員の給与、教材、制服、文具などの運営の一部を支援した。

##### **SSH 教育支援事業** 3名

【タミルナードゥ州ナマカル県】

家庭の事情により学校に通えない小学生、特に家族や両親、子ども自身がHIVに感染し、差別を受けている子どもたちを対象に、より多くの子が学校へ通えるために学費や制服代、学用品などを支

援。加えて子供たちカウンセリングプログラムを実施しケアを行っている。(累計73名)

##### **RUDYA 教育支援事業** 7名

【マハラシュトラ州ガッチロリ県パダトラ村】

日印友好学園パダトラ小学校に通う少数民族の子どもたちへの教育支援。遠方からの就学者に対しては、寮にて生活できる体制を作り、通学困難により離学することを防ぎ、就学率の向上を目指している。

##### **AFS-Nagpur 教育支援事業** 15名

【マハラシュトラ州ナグプール県】

スラム街の子どもたちが継続的な就学、教育を受けられるよう支援を実施。加えて、就学に必要な文具配布や読み書き教室を実施し、子ども達の学習意欲とモチベーション向上を目指した活動も行った。

#### ●カンボジア

##### **KAFS 教育支援事業** 21名

【タケオ州】

タケオ州の小学校、中学校、高校の運営支援および、子どもたちへの教材や年一度の校外学習の支援。里子を含めた村の子どもたちを対象とした英語の課外授業の支援。

#### ●ネパール

##### **AFS-Nepal 教育支援事業** 24名

【ナワルプル郡カワソティ市ピトゥリ村】

ピトゥリ村のスリーサンティ小学校、ラーズラトナ小学校、ピトゥリ小学校の就学対象者の中で自費就学が不可能な子どもへの学費支援(継続就学と高校教育修了)と学校運営支援を実施した。

##### **AFS-Nepal ナウリンセカンダリースクール** 76名

【カトマンズ郡ブタニルカンタ市チュニケル村】

チュニケル村の自費就学が出来ない貧農民や移住労働者の子どもたちが安心して就学できるように、学費支援と学校運営支援を実施した。今年度は、高槻市立第2中学校の生徒よりの寄贈鉛筆を配布し、日ネの生徒交流を行った。

##### **AFS-Nepal ボテシバ村 教育支援事業**

##### **チャンデスウォリ H.セカンダリースクール** 4名

##### **AFS-Nepal サラソワティ L.セカンダリースクール** 16名

【シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.Word No.10 ボテシバ】

2015年の中部大地震により大きな被害を受け、家屋倒壊により経済状況が悪化した世帯や親を亡くした子どもたちの就学支援を引きつづき実施。高等学校卒業まで就学できるよう学費支援と学校運営支援を行った。

##### **AFS-Nepal バクタプール教育支援事業**

##### **クリエイティブ イングリッシュ セカンダリースクール** 9名

【バクタプール郡バクタプール市】

2015年の大地震で大きな被害をうけ、その後経済状況が困難になった学生たちが就学を継続でき、10年生(中等教育終了学年)を修了し高等教育に進学するまでの支援を行った。



## ●バングラデシュ

**BDP 教育支援事業 32名**

【ネトロコナ県】

規程の小学教育を受けない地域の子どもたちを対象に、中学以上の就学を推進すると同時に、しっかり学び、高等学校卒業をめざした支援。特にバングラデシュでは、中等教育以降の就学費は個人負担額が多くなるため、就学率が下がる。就学意欲のある子どもが継続的に就学できるよう支援を行うと同時に、教育向上を目指し補習の受講支援を実施した。

## ●フィリピン

**ASI 教育支援事業 25名**

【カビテ州ダスマリネス町パリパラン】

【マニラ市マラテ町サンアンドレス】

マニラ市郊外のダスマリネス町パリパランに強制移住させられた家族の子どもたちと、彼らの元居住地であった国鉄線路沿いの地区、サンアンドレスにて移住先のない家族の子どもたちが、継続就学できるように、授業料、教科書、教材、学校補習等を支援した。

## 2. 教育設備・環境整備

### (1) 学校建設

(2023年3月現在)

国名	2022年度建設数	校舎棟累計数
インド	-	24
インドネシア	-	2
カンボジア	-	42
タイ	-	10
中国	-	1
ネパール	0	※44
パキスタン	-	2
ラオス	建設中	1
フィリピン	-	8
ベトナム	-	3
合計	0	137

※学校及び研修施設、コミュニティホール数を含む

## ●ネパール

### AFS-Nepal 小中学校増設及び設備支援

ナワルバラシ郡にて学校校舎建設を実施予定であったが、ネパール政府認定の設計図の変更及び資材の高騰で資金が不足となり、建設実施が来年度に延期となった。

## ●ラオス

### LAFS 学生寮建設支援

ブンヌア郡の公立中学校に通う遠方の山間地域の生徒たちが就学するために必要な寮の建設が開始され、建設途中である。

### (2) 教育環境整備

## ●バングラデシュ

**BDP 学校トイレ建設**

【ボリシャル県、ネトロコナ県】

子どもたちの衛生環境を守り、安心した学校生活を送れるよう、BDPが運営するノンフォーマル小学校の老朽化したトイレを再建設した。10校分のトイレ環境を整備したと同時に、衛生に関するテキストを配布し、衛生教育・啓発活動を行った。(積水ハウスマッチングプログラムによる助成) \*子ども達の教育環境整備事業の一環である。

## 3. HIV/AIDS 子ども感染予防

## ●インド

**SSH HIV/AIDS 支援 2世帯**

【タミルナードゥ州ディンディガル県・ナマカル県】

家族の一員がHIV/AIDSに感染し、安定した生活を送ることができず、子どもへの教育継続のままならない世帯に対して、栄養食の配布、抗HIV/AIDSウィルス薬の定期接種、HIV/AIDSに感染しながら生活するためのトレーニング、マイクロクレジットを支援している。今年度は、タミルナードゥ州ナマカル県、ディンディガル県の農村2世帯を支援した。

## 4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育支援

## ●ネパール

### AFS-Nepal 栄養改善支援事業 小学校給食

【ルンビニ県ナワルプル郡カワソティ-N.P.ピトゥリ村】

ネパールは自給率がほぼ100%であるが、暮らしの中で、自給できる食物での食事づくりです。その食品種は少なく、日常の食事から摂取できる栄養素に偏りがある。食品種を増やすなどの工夫ができないその原因は大きく二つあり、一つ目は経済的な要因。二つ目は栄養への理解不足。小学校での給食と栄養知識普及を行うことで、子どもたちの健康や成長不全状況が改善されることを目指している。農村部ではカロリー確保するために炭水化物中心の食生活で、成長期の子どもたちに必要なたんぱく質をはじめとした栄養素の摂取が不十分である。ピトゥリ村スリーサンティ小学校の150名の生徒を対象に、週に一度、卵と牛乳の給食を継続的に支援(28年間)。教育的要素を兼ねたプロジェクトとなっている。継続支援を行う事で就学児童たちの健全な学校生活と健康保全に繋がっている。新型コロナウイルス感染症の影響のおおりに受けた家庭の経済悪化の中、子ども達の栄養不良を防ぐことにもつながった。

### AFS-Nepal 栄養改善支援事業 栄養士育成

【日本】

上記のような農村地域の栄養を改善するための栄養指導者となる栄養士育成対象者3名のうち2名が来日し2022年4月より日本の栄養士過程で学ぶための日本語力習得に向けて、京都YMCA専門学校日本語科で1年目の学習を行った。8月には甲子園大学栄養学部の見学を行い、日本の栄養学教育環境を理解する機会をもった。他1名は、2023年4月より甲子園大学大学院栄養科学研究を行うために受験し、合格。留学が決定した。(京都西南ロータリークラブとの共同事業)

## ●インド

### AFS-Nagpur チャイルドアカデミー

【マハラシュトラ州ナグプール県】

スラム街の子どもたちが継続的に就学し、教育を受け自立を促すことを目指した支援。地域の子ども達 30 人への学用品の配布を行った。

## ●フィリピン

### ASI ストリートチルドレン支援

【カビテ州ダスマリネス町バリパラン】

【マニラ市マラテ町サン・アンドレス】

マニラ市サン・アンドレスにて、廃材で作られた家で生活を送る世帯、またバリパランに強制移住させられ、安定した経済状況を送ることが厳しい世帯の子どもたちに対して、継続した教育が受けられるよう、支援を実施。コロナの影響でさらに生活が厳しくなり、路上に戻ってしまう子どもが多い中、今年度は 96 名の子ども達への学用品等の支援及び、新しい教育システムから取り残されている子どもたちのための補習授業、感染拡大させないための衛生・環境教育、リーダーシップトレーニング等を実施した。対面のプログラムも増やし、子どもたちが孤立や不安に悩まされず、希望をもって勉強や物事に取り組めるよう活動した。また保護者へのプログラムや話し合いもおこない、子ども達が安心して継続的に学べる環境を整えることができた。



カンボジア 学用品を受け取る教育里親支援の対象の学生たち



ネパール 高槻第 2 中学校の文具プレゼントにお礼メッセージで交流



フィリピン ストリートチルドレンへの教育支援プログラム



バングラデシュ、ネトロコーナ県 衛生教育授業の様子



日本の大学栄養学部の見学をするネパール人留学生



ネパール スリーサンティ小学校での給食の様子

## I-C. 貧困対策事業

### 1. マイクロクレジット支援・能力開発

#### (1) 小規模産業育成支援

##### ●インド

###### HDSI 低所得層の女性による縫製を通じた生活改善

【マハラシュトラ州アムラワティ県】

女性の自助グループ(SHG)を対象に、縫製訓練を実施予定であったが新型コロナウイルス感染症の影響で次年度に延期。

##### ●カンボジア

###### KAFS 貧困層の村への開発支援資金(旧マイクロクレジット)

【タケオ州ドーンケオ郡、トラン郡】

貧困層が多い村への小規模産業支援資金として、村の開発委員会に供与される資金を村人に無利息にて資金を貸付する形で実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響による村のより厳しい経済状況の中、事業を始められる状況にないことから中止した。

##### ●ネパール

###### AFS-Nepal 小農家自立支援

【シンドゥパルチョーク郡インドラワティG.P.10地区(旧ボテシバ村)】

農業による暮らしが成り立たず出稼ぎや移住が多発する農村部の人々が安定収入により暮らしが成り立つことを目指し、持続可能な地域づくりを目指して農業支援を実施。設立した農業組合のメンバーを中心とした農業発展推進、将来的に地域のために農業指導者となる青年1名の農業専修学校への授業料サポートを実施した(6年間コースの3年目)。現地の人たちの農業法の一つとしてのモデルケースとして馬2頭を取り入れた自然農法循環型農業の取り組みをはじめ、コーヒー農園にショウガ、ニンニク、ウコンなどの野菜を混植することによるコーヒー育成中の収入確保のための事例紹介を具体的に現地農民に示した。

##### ●フィリピン

###### AFS-Sorsogon, UMD 漁民及び農民への小規模産業育成支援

【ソルソゴン州マトノグ町ゲナブラン村他7ヶ村、ソルソゴン州マトノグ町シティオパド トゥガス村】

沿岸地域の養殖開発や薪伐採のために失われたマングローブの森を取り戻し、漁業に携わる人々が持続的に魚が生息する漁場づくりのために植林したマングローブのメンテナンスや苗床づくりを継続しておこなった。各村々で自主的に活動する村人が増え、環境保全の意識がより高まっている。順調に木々が生育していることから、行政からも活動が認められ保全区域として指定を受けたことで、地域全体で森づくりに取り組めるようになった。コロナの影響で、収入が減る一方で物価は上がっており、困窮する村人が増加。村の中で生計につながる農業をおこなえるよう、有機肥料による土壌改良や多種多様な苗木の生産に加え、養殖池や青少年達の実地研修もできる農園が完成し、収穫物も得られるようになった。地域の有機農業研修の拠点となっている。

### (2) 職業訓練

#### AFS-Pandan 障がい者支援

【アンティーク州パナイ島パンダン町】

障がい者や家族の生活は、コロナによる失業や行動制限により今まで以上に忘れられ取り残されている。パンダン障がい者協会のメンバーが中心となって、定期的な通院や福祉機器の運搬の協力を継続。仕事を失った家庭への救援物資の配布や医薬品と食料を購入時に割引を受けられる障がい者IDカードの発行を引き続きおこなった。卒業した障がい児童の自立を目指し、使用済みプラスチック再生によるエコブリックの製造と運営組織作りを開始。より強度を高められるよう、材料や配合の試作を繰り返し、より幅広いニーズにこたえられるよう取り組んだ。

オーグズ総研から寄贈されたリユースパソコン5台が届けられ、言語障がいや身体障がいのある学生の学習や職業訓練に活用されている。

### 2. 保健衛生指導・医療

#### (1) トイレ建設

(2023年3月現在)

国名	2022年度完成	累積
インド	-	1,205
カンボジア	-	4
バングラデシュ	※10	285
パキスタン	-	6
ネパール	15	1,069
タイ	-	9
ラオス	-	1
フィリピン	-	1
合計	25	2,580

※子ども達の教育環境整備事業の一環として実施。

##### ●ネパール

###### AFS-Nepal 農村トイレ建設支援

(バイオガスプラント設置付帯事業) **15基**

【バグマティ県シンドゥパルチョーク郡インドラワティG.P.10地区6地区】

バイオガスプラント設置時にトイレの設置が条件付けされている。そのためにバイオガスプラント設置時にトイレ設置を始める農家が多くなっている。今年度はバイオガスプラント15基の設置に対し15世帯にトイレの設置が行われた。

#### (2) 医療支援

##### ●インド

###### RUDYA ムスカ村住民のための保健プロジェクト

【ガッチロリ県ダンノーラ地区ムスカ村】

2017年11月に開設したムスカ村の病院(診療所)に対して、看



護士 1 名が常駐し、医師を週 1 回派遣することにより、住民が診療を受けることができるように支援した。また、住民への衛生啓発活動も実施した。運営資金確保が不安定であるため、十分な運営を行っていくことが今後の課題である。

## ●ネパール

### AFS-Nepal 女性保健向上支援事業

【バグマティ県シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区】  
ネパールの農村部の学校では性教育を実施できている学校が少ないと同時に家庭教育も不十分な状態。女子学生が自分の健康を守ると同時に、思春期の大切な時期の学校生活を安心して送れるように、サニタリー布ナプキンを活用し加えて自分たちの体の事を正しく理解する活動の推進を実施。今年度は特に、3 日間のナプキン制作訓練研修に 15 人の女性が参加し、ナプキンの現地制作ができる技術者育成を開始した。

## 3. 提携 NGO 運営助成

本会の国際事業の柱の一つとして、国際ネットワーク AFS の各国部会 (NGO) の活動の強化は必須である。しかし、発展途上国では NGO の自己資金調達が困難であり助成を必要としている。自立運営を目指して、以下の各団体の運営に協力した。運営費及びプログラム経費を一部補助。

### RUDYA(インド)

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

### KAFS(カンボジア)

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

### SARVODAYA(スリランカ)

サルボダヤの元スタッフのクナシリ氏の活動費を支援。サルボダヤの瞑想研修センターの人材育成、孤児の保護と教育、障がい者の職業訓練、高齢者の支援施設等のファシリテーターの育成を実施。



フィリピン 障がい者協会に職業訓練のためにリユースパソコン寄贈



ネパール 馬の利活用によるモデル有機農業活動



フィリピン 建設中の養殖池



インド SATHI 病院で診療を受ける患者と医師



ネパール サニタリー布ナプキン作製の講習会

## I-D. 環境事業

### 1. 植林・水源涵養林養育

持続可能な地域づくり、そして、災害や環境破壊から回復力の強化には環境保全を加味することが不可欠である。地球全体で脱炭素社会を目指す中、プラスチックの生産、使用量に着目されているが、森林減少に伴う温暖効果ガス排出量は世界全体の排出量の2割を占めるのも事実である。植林は大気浄化という大きな役割と共に、当会活動の根幹にある、安全な水の供給のための水資源の確保にも重要な活動である。同時に、地域づくりにおいても森林地面積がキーであり、森林減少が農作物の収穫量の減少へ連鎖し、それは、更なる環境汚染や貧困への要因にもつながる。これらを防ぐために、地域資源を活かしながら、自然環境が自らの地域社会にもたらす影響を教育や啓発を通して学び、自然を守る心を育て、環境保全を実践していく活動を以下行った。

#### (1) 植林

(2023年3月現在)

国名	2022年度植林	累積
インド	0	712,405
インドネシア	0	213,460
カンボジア	-	18,000
スリランカ	200	1,535
タイ	-	20,500
中国	-	1,105,525
ネパール	3,000	307,907
パキスタン	-	4,560
フィリピン	3,950	170,465
バングラデシュ	3,347	34,875
	10,497	2,589,232

#### ●ネパール

**AFS-Nepal コミュニティ フォレスト 3,000本**

**【バグマティ県シンドウパルチョーク郡インドラワティ村10地区】**

地域の緑化と収入をバランスよく行えることを目指しコーヒー栽培を実施。コーヒーの育成の為に必要な日陰樹としてマメ科の高木を1,000本、コーヒーの木を2,000本と同時にコーヒー苗の育苗を10,000株実施し、日本人の専門家及び現地の専門家による講習会を8月と12月に実施し、広く住民がコーヒー栽培(植樹)を行える知識伝授と共に苗木配布も行った。

(令和2年度及び平成3年度緑の募金公募事業)

#### ●バングラデシュ

**BDP 学校を中心とした植林活動 3,347本**

**【ボリシャル県・ガジプール県・ネトロコーナ県・ジャマルプ**

#### ール県】

BDPが運営するノンフォーマル教育の小学校の子どもたちが、地域の環境を守る意識づくりを行うため、各学校にて植林活動と環境教育を実施した。4県4校の計3,347人の生徒へジャックフルーツの苗木の配布し、植樹活動を実施した。また、生徒たちへ環境教育も合わせて実施した。今後の環境活動展開へ活かしていく。

(2022年度連合愛のキャンパ 中央助成事業)

#### ●フィリピン

**AFS-Pandan パندان水源の森植林 1,200本**

**【アンティーク州パナイ島パندان町】**

マロンパティの水源地を守る森を保全するために、水道局と地域の学校が中心となって苗木作りや定期的な草刈り等、森のメンテナンスをおこなった。毎年の台風被害で多くの木材が必要となり、グリーンスカウトメンバーが中心になり、苗木づくりと植林をおこなった。

#### ●スリランカ

**SARVODAYA コミュニティフォレスト 200本**

**【ポロンナルワ県ランカプラ地区及びタマンカドゥワ地区の5ヶ村】**

井戸を寄贈した村々の水源と地域の環境を保全し、収入につながる果樹を含む植林200本をおこなった。地球の環境保全や地域の生態系、水の保全、植林する木の特徴や育て方等についてのセミナーをおこなった。村全体で協力して井戸と緑を守る、青少年を中心とした体制作りをおこなった。

### 2. 環境改善・国際グリーンスカウト

国際グリーンスカウト(GS)運動とは「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全」に取り組む市民活動である。1986年に本会が提唱。アジアにおける「理解と協力と連帯」の輪を広げる実践活動の一環として、AFSの海外ネットワークを通じて16か国にて展開した。アジア各国に草の根市民による環境保全活動を広げることを目的としている。今年度は4か国で実施した。

#### ●ネパール

**AFS-Nepal ゴミ分別及び処理セミナー及びゴミ収集場所の設置**

**【シンドウパルチョーク郡インドラワティ村10地区】**

地域環境保全のために環境ジュニアリーダー育成を実施してきた。地域全体への活動展開及び住民全員が環境保全の意識をもち持続的な地域づくりを行うために、地区内のゴミの処理を行うためのゴミ収集場所を集落に40ヶ所設置併せて地区のリーダー40名にゴミ処理に関するセミナーを2回実施した。shree suryodaya secondary school 学校での3日間の環境プログラムを1回実施し95名の生徒が参加した。

※りそなアジア・オセアニア財団環境プロジェクト助成事業

**AFS-Nepal グリーンスカウト ローカルGS組織づくり**

**【カトマンズ郡ブタニルカント N.P.チュニケル村、ナワルパラシヨ郡カワソティ N.P.ピトゥリ村】**

村の青少年を中心としたローカルGSづくりを奨励。環境改善に



向けての方法を考え、行動できるように促している。ピトゥリ村 GS は、地域の子もたちが小グループを作り、3R 推進を中心に環境美化推進運動を実施。住居周辺道の清掃活動をスリーサンティ小学校、ラズマンディル小学校、ピトゥリ小学校の生徒と地域住民が協力して継続実施している。チュニケル村 GS は、ナウリンセカンダリースクールの里子たちがその役割を担い地域清掃と共に植林による積極的な環境保全活動を実施している。

## ●フィリピン

### AFS-Pandan, AFS-Antique グリーンスカウト運動

#### 【アンティーク州パナイ島 パンダン町、シバロン市他】

各地域で、地球全体の環境や地域の保全活動について学び、実践する取り組みを実施した。学校内に有機農園や池をつくり動植物を育成や、地域清掃等を通じて、子ども達が地球と地域の環境を守る取組みに意識を向け、行動できる人材の育成をおこなった。

## ●フィリピン

### AFS-Sorsogon グリーンスカウト運動・地域環境改善事業

#### 【ソルソゴン州マトノグ町】

マングローブの生育の妨げや農地の土壌汚染、地域の水環境の悪化を改善していくために、住民主体のごみ管理に取り組んだ。カマチレス村に堆肥化及び育苗センターを建設。ごみの分別や堆肥化・苗木作りのセミナーを開催し、有機性ごみ堆肥化と緑化の推進をおこなった。環境教育プログラム(合計 2,732 人参加)やクリーンアップイベント(合計 1,583 人参加)を定期的で開催し、地域のごみ約 18,100 kgを回収、内有機ごみから約 1,200 kgの堆肥を生産し、地域や家庭での緑化に役立てられている。また、耐久性のある分別用ごみ箱を 41 ヶ所に設置し、ポイ捨てしない習慣の養成とリサイクルを推進した。住民間での情報交換と相互啓発を目的に、SNS グループを活動毎に作り活用している。コロナ禍で生活がより厳しくなった各家庭では、野菜や果樹の木も多く育て(合計 2,750 本)、家族で食べれることで、栄養改善や経済的負担の軽減、生活の安心感につながっている。

※第 17 回 TOTO 水環境基金の助成を受け実施。

## ●スリランカ

### SARVODAYA グリーンスカウト運動

#### 【スリランカ全土】

井戸を贈った村や学校を拠点として、環境保全活動について学び、実践する取り組みを進めた。スリランカの生物多様性を持続可能なものにするために、青少年を中心に地球と地域の環境保全に意識を向け、行動していく人材の育成をおこなった。

## 3. 再生可能エネルギー資源活用・普及

## ●ネパール

### AFS-Nepal バイオガスプラント設置及び普及事業 15 基

#### 【シンドゥパルチョーク郡インドラワティ村 10 地区】

10 基のバイオガスプラントを設置し、今回の支援により年間の薪の使用料を約 38,400kg、また二酸化炭素排出量を 75 トン(1 基当たり年間 5 トン減少)抑えることができた。また、1 基の設置につき、薪の年間使用量と 1 世帯当たり 4,000Kg の使用量の内 70~90%削減することができ、国土の 30%台にまでに減少(以前は 70%)した森林面積の回復にも繋がった。資源がないネパールでは、身近にある牛糞を利用したバイオガスが、

確実な燃料確保につながると同時に、森の保全に繋がるために村人が着目し、活用されている。そして近年特に注目されているのが、ガスが出た後に排出される糞のカス、スラリーの農業への肥料利用である。対象エリアは、ゴミの有効利用による環境配慮した持続可能な地域づくりを目指している。同時にトイレの併設も進み衛生向上にも繋がっている。

【現在まで累計 1,233 基設置】

※本事業 15 基の設置は、りそなアジア・オセアニア財団 環境プロジェクト助成により実施。



ネパール コーヒー苗木づくりを日本人専門家の講習により実施



フィリピン 住宅地とつながる河口付近でクリーンアップ運動



スリランカ グリーンスカウト運動の啓発プログラム



## I-E . ワークキャンプ・視察

### 1. ワークキャンプ

国際ワークキャンプを通じて、本会の海外プロジェクトを支援すると共に、現地での共同(協働)作業により国際理解・文化交流の機会とし、各活動に対する理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目指し、アジア各地で実施している。

2022年度は昨年度に引き続き、コロナの影響を受け、実施しなかった。

### 2. 海外プロジェクト視察

事業の確認調整等のために3カ国7回の視察を実施した。

#### 1. ネパール 支援事業視察(緑の募金事業関係)

期間:2022年7月14日(木)~2022年7月28日(木)

場所:カトマンズ、シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区

派遣者:三本木一夫(7月14日~7月24)、熱田典子

内容:ネパール シンドゥパルチョーク郡におけるコーヒー育苗と栽培による環境保全(緑の募金の助成事業)実施

#### 2. ネパール 支援事業調整及び現地政府調印

期間:2022年10月28日~11月5日

場所:カトマンズ、シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区、ナワルプル郡

派遣者:熱田典子

内容:PAの申請に関して、ネパール政府との調印、R4年度日本NGO連携無償資金協力支援事業に向けての調整、視察、事業確認

#### 3. インド 支援事業視察

期間:2022年11月6日~9日

場所:バンガロール、バンガロール村

派遣者:熱田典子

内容:職業訓練学校事業の調整確認

#### 4. ネパール 支援事業実施及び視察

期間:2022年12月20日(火)~2023年1月7日(土)

場所:カトマンズ、シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区

派遣者:三本木一夫(12月21日~12月30日)、熱田典子

内容:シンドゥパルチョーク郡におけるコーヒー育苗と栽培による環境保全事業(緑の募金の助成事業/りそなアジアオセアニア財団助成事業)、栄養事業調整 他

#### 5. ネパール 支援事業実施及び視察

期間:2023年1月15日(日)~1月25日(水)

場所:カトマンズ、シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区

派遣者:天野 紀(防災専門家)

内容:シンドゥパルチョーク郡の農村型自治体における防災力強化事業の実施に向けての事前視察

#### 6. カンボジア 支援事業視察

期間:2023年2月21日~25日

場所:タケオ州トレン郡ロネアム地区ソフィ村、トマダ村

派遣者:花巻北ロータリークラブ4名、岡本佳子

内容:寄贈井戸訪問、村人との交流、井戸建設候補地視察

#### 7. ネパール 支援事業実施及び視察

期間:2023年3月18日(土)~2023年4月3日(月)

場所:カトマンズ、シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区

派遣者:三本木一夫(12月21日~12月30日)、熱田典子

内容:シンドゥパルチョーク郡の農村型自治体における防災力強化事業(R4年度日本NGO連携無償資金協力=N連事業)の事業スタートにおける、現地準備 現地の役割などの確認、行政への挨拶、5月実施の専門家プログラムの準備調整、在ネパール日本大使館とへの挨拶及びNGO合同会合出席 等



カンボジア 花巻北ロータリークラブ 寄贈井戸を訪問



ネパール 防災事業に実施に向けて現場の事前調査をする天野専門家



ネパール 地域発展のために長年尽くしている地域リーダー達と

## Ⅱ. 国際交流事業

### Ⅱ－A. 人材交流・育成事業

#### 1. 奨学金支援

将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく寄与すると期待される AFS ネットワークの若手の人材育成資金(奨学金等)を支援した。

##### ●フィリピン

###### ASI マニラ

フィリピンの大学院大学、アジア社会科学院 (Asian Social Institute ASI) の地域開発専門コースがコロナのためオンラインで開催されたが、対象者がいなかったため奨学支援はおこなわなかった。

##### ●インド

###### HDSI アムラワティ 1名

HDSI の後継者として活動している Gaius Thorat 氏が専門的な知識を有し、HDSI に持続的に活動できるために、奨学金としてバラティヴィディアピート大学院社会開発の修士課程 1 年目の学費を支援した

#### 2. 海外ボランティア研修制度

アジア諸国との国際協力・理解と、市民レベルでの草の根ネットワークを広げていくことを目指し、海外経験を通して幅広い人材育成を行う制度として2000年より実施。2022 年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、募集を行わなかった。

#### 3. 人材育成事業

##### (1) アジア・ユースサミット (AYS)

昨年度実施した、第7回アジア・ユースサミット「地域を良くするプロジェクトを創ろう - コロナ禍で私たちにできること-」のその後の高校生実施事業確認を行った。アジア各地で高校生たちがコロナの制限の中、可能な形で活躍をしていることが確認できた。

一方、コロナ状況が大きくかわり、活動の見直しが必要な事業もあり、その事業については、今後の活動の方向性を検討する。

アジア・ユースサミットの取り組みを高校生に知らしめるために下記3つの活動に参加した。

- ① Summer SDG s Festival for Youth 2022  
開催日：8月20日(日)  
場所：大阪YMCA 2階ホール

ブース出展及び活動紹介

参加者：155名

- ② ユースのためのオンラインスタディツアー×国際交流プログラム ネパールツアー  
テーマ：ネパールのユースと「私たちが作りたい社会」についてディスカッションしよう SDGs 4・5・6・11・12  
開催日：10月22日(土)  
参加者：日本側11名、ネパール側12名  
実施方法：オンライン
- ③ ワン・ワールド ドフェスティバル for Youth 2022  
～私たちが描く持続可能な社会の未来図～  
開催日：12月18日(日)  
場所：大阪YMCA 及びオンライン特設会場  
プログラム参加 「暮らしの中の水について考えよう」  
プログラム参加者：30人



Summer SDGs Festival for Youth 2022 で高校生と活動の説明をするネパール留学生



ワン・ワールド ドフェスティバル for Youth 2022 にて、「暮らしの中の水について考えよう」のプログラムの実施



## Ⅱ-B. ネットワーク推進事業

### 1. 国際会議

#### (1) アジア国際ネットワークセミナー

アジア国際ネットワークセミナーは、「貧困なき一つなるアジア共同体を目指して～アジアに理解と協力と連帯の輪をひろげよう～」をテーマに毎年開催し、今年度も秋に第30回をスリランカで開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染の世界的流行のため3年連続でやむなく中止した。

その代わりとして、下記の通りオンライン(ZOOM)による会議を1回実施し、今回は AFS スリランカがホストとなり、スリランカからの報告をはじめ、AFS ネットワークメンバーのお互いの安否の確認と現況を共有することができた。

第4回オンライン会議(AFS Virtual Meeting on Covid-19)

日時: 2022年10月1日(土)16:30-19:30(日本時間)

参加国: インド、ネパール、バングラデシュ、スリランカ、パキスタン、カンボジア、インドネシア、フィリピン、シンガポール、日本、以上10ヶ国

参加者数:57名(内日本18名)

概要:コーディネーターAFS国際事務局 ジーナ・ヤップ事務局長

ホスト:AFS スリランカ

挨拶 ネットワークセミナー担当 西田貞之理事

小原純子副会長、村上公彦 事務局長

基調講演:コロボ大学 M.ガネッシャモシー博士

「スリランカの政治経済の危機とアジアに及ぼす影響」

スリランカ・サルボダヤから報告はじめ、各国のチャプターより

現況・課題報告等 意見交換した。

#### (2) 国際ネットワーク機能強化事業

設立基本目標の一つである国際連帯を図るネットワーク事業。当事業推進ために AFS/ICO(国際調整事務局)を設けている。AFS/ICO は JAFS 事務局長を中心に、各国の部会(提携団体)から選出した8名の委員で構成して活動している。

アジア国際ネットワーク事務局の強化と、それに伴うアジアにおけるネットワーク強化を推進した。

#### (3) アジア・フレンドシップ夢基金

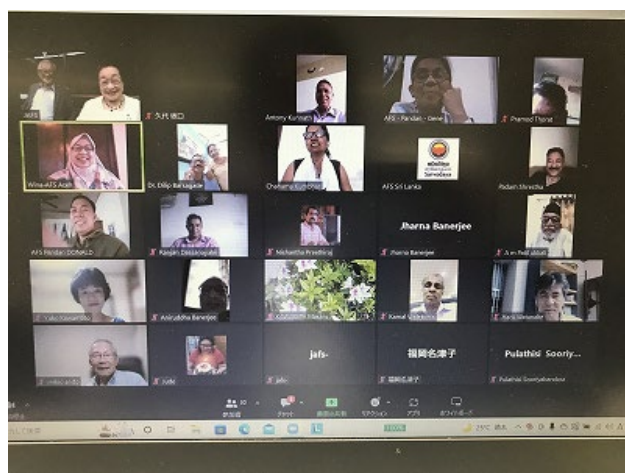
当基金は AFS/ICO(国際ネットワーク事務局)の事業の一環として本会のアジアにおけるネットワークの求心力を高めるために 2008年に設立された国際基金。現在アジア 8ヶ国の各部会が任意に参加している。

本会において国際基金は2010年から「夢基金」という名目で世話人会が発足。募金のための世話人会(代表 坂口久代理事)を設けて国際基金募金に協力している。

2022年4月11日、5月10日、7月12日、10月11日に夢基金世話人会を開催した。6月5日(日)に河内長野市の醤油蔵跡でアジアフレンドシップ夢基金コンサートを開催。参加者:55名。

### 2. 国際体験交流(スタディツアー等)

アジアにおける本会海外プロジェクト視察や、アジアの現状に対して足を運び実感するスタディツアー等を通じて、国際理解文化交流の場を広く人々に提供し、本会の活動事業への理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目的とする。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、計画できなかった。



第4回 AFS オンライン会議の様子

# 海外提携団体 AFSネットワーク

(18ヶ国 70団体 日本除く)

提携団体 (略称)	管理責任者	所在地	活動
<b>1 インド</b>			
1 BSVIA	N. クンバール	カルナータカ州ビジャヤプーラ	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
2 EDCI	S.サンディシュ	マハラシュトラ州ナグプール	子ども、貧困対策、環境
3 ISSA	調整中	マハラシュトラ州プーネ	水、子ども、貧困対策
4 AFS Kolkata	A. バナジー	西ベンガル州コルカタ	水
5 SSH	B.セルヴァラージ	タミルナードゥ州ディンディガル	水、子ども、災害復興
6 RUDYA	K. デオガデ	マハラシュトラ州ガッチロリ	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
7 HDSI	P. ソラット	マハラシュトラ州アムラワティ	水、環境
8 JVK	アショク・トッポ	オリッサ州ブバネシュワール	災害復興
9 AMS	A.P.ポール	タミルナードゥ州マバルワベタイ	水、貧困対策
10 Don Bosco Ashalayam	Fr. ジョージ	デリー	子ども
11 Runa	ピーター・ベロ	ナガランド州コヒマ	水
12 AFS-Nagpur	P. ビシャール	マハラシュトラ州ナグプール	子ども、貧困対策
13 AFS-Akola	D. ダンラジ	マハラシュトラ州アコラ	環境
14 AFS-Rural Gacchiroli	D. パルサガデ	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
15 AFS-Gadchiroli	P. ソンタッケ	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
16 AFS-Saoli	B. アレワール	マハラシュトラ州チャンドラプール	貧困対策
17 AFS-Aramori	M. ヘポット	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
18 AFS-Chhattisgarh	S.H.パッタン	マハラシュトラ州チャティスガー	貧困対策
19 AFS-Sanguli	クムディニ・ナシュテ	マハラシュトラ州ソラプール	子ども、貧困対策
20 AFS-Latur	ラジ・マホール	マハラシュトラ州ラトール	子ども、貧困対策
21 AFS-Bangalore	カムレ	カルナータカ州バンガロール	子ども、貧困対策
22 IJSDC	ウノ・イクバル	カルナータカ州バンガロール	貧困対策
23 AFS-Lonara	タラチャン・カブセ	マハラシュトラ州ロナラ	水、貧困対策
<b>2 インドネシア</b>			
24 HOSANNA	E.サントサ	バリ島ケロボカン	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
25 AFS-Aceh	サラ・ジュマリア	アチェ州	環境、災害復興
26 AFS-Jakarta	B. ラバン	ジャカルタ	水、貧困対策、環境
27 Dhyana Pura 大学	マデ・ニヤンドラ	バリ島クタ	国際交流
<b>3 韓国</b>			
28 公州大学校産業科学大学	調整中	忠清南道礼山	国際交流
<b>4 カンボジア</b>			
29 KAFS	ロン・チョーン	プノンペン	水、子ども、貧困対策
<b>5 シンガポール</b>			
30 AFS- Singapore	エドワード・オング	シンガポール	国際交流
<b>6 スリランカ</b>			
31 SARVODAYA	A.T.アリヤラトネ	モラトゥワ	水、環境、貧困対策

<b>7</b>	<b>タイ</b>			
32	VITAL	K.スリサン	コンケン県マハサラカム	貧困対策
33	TAFS	ニラン・チャンタ	バンコック	子ども、国際交流
34	FON	サック・ノスリ	ナン県	子ども、貧困対策
35	ELF	チャイチェン	チェンマイ	国際交流
36	AFS-Chang Mai	チャイワット	チェンマイ	国際交流
37	AFS-Lampang	スラボン・パクディ	ランパン	環境
38	AFS-Udontani	サン・セン	ウドンタニ	国際交流
<b>8</b>	<b>中国</b>			
39	CHAFS	羅 紅光	北京	子ども、環境
40	AFS Hong Kong	調整中	香港	国際交流
41	AFS Uighur	ユスフ・エムデオラ	ウルムチ	貧困対策、国際交流
<b>9</b>	<b>ネパール</b>			
42	AFS-Nepal(GreenScout Nepal)	ラジャン・M・マツラ	カトマンズ	水、子ども、貧困対策、環境
43	HARD-EC	S.P.ジョッシ	カトマンズ	貧困対策、環境
<b>10</b>	<b>パキスタン</b>			
44	PAFS	C.H.ナディーム	イスラマバード	水、子ども、災害復興
<b>11</b>	<b>バングラデシュ</b>			
45	AFS-Bangladesh	M.H. ザーマン	ダッカ	水、貧困対策
46	AFS-Dhaka	M.フェローズ	ダッカ	水、子ども、貧困対策、環境
47	AFS-Chittagong	I.チョウドリー	チッタゴン	国際交流
48	BDP	アムローズ・ゴメス	ミルプール	水、子ども、貧困対策、災害復興
49	AFS-Chandraghona	プロビール・キャン	チャンドラゴナ	水、子ども、災害復興
<b>12</b>	<b>フィリピン</b>			
50	KALIPI	エロイサ・クナナン	ヌエバエシハ州サンレオナルド	水、貧困対策、環境、災害復興
51	AFS-Pandan	ネリ・サラビア・レクタ	アンティーケ州パンダン	水、子ども、環境、貧困対策
52	AFS-Virac,Catanduanes	ランド・グロバット	カタンドゥアネス州ピラク	水、環境、災害復興
53	AFS-Manila	マラガ・アマンテ	マニラ市	国際交流
54	AFS-Zamboanga	エメリタ・バシリオ	南サンボアンガ州サンボアンガ	国際交流
55	Asian Social Institute	ミナ・ラミレス	マニラ市	子ども、貧困対策、環境、災害復興
56	AFS-Davao Oriental	レイナルド・ギタカイ	東ダバオ州ダバオ・オリエンタル	国際交流
57	AFS-Ibajay	エミリー・アランゴテ	アクラン州イバハイ	子ども
58	AFS-South Antique	ビクター・デ・グラシア	アンティーケ州サンホセ	子ども
59	AFS-Sorsogon, UMD	ジーナ・ヤップ	ソルソゴン州マトノグ	子ども、環境、貧困対策
60	AFS-Antique	ジェネロサ・コンデス	アンティーケ州	貧困対策、環境
61	AFS-Guimaras	ヴィック・デ・グラシア	ギマラス州	環境
62	AFS-Kabankalan	エライザ・ベルナオーラ	西ネグロス州	環境
63	AFS-Tacloban	ロウエナ・ロセ	レイテ島タクロバン	貧困対策、災害復興
<b>13</b>	<b>ベトナム</b>			
64	VAFS	調整中	ホーチミン	貧困対策、子ども
65	Cantho 大学	ドン・バン・ニー	カントー	貧困対策
<b>14</b>	<b>マレーシア</b>			
66	AFS-Malaysia	リム・チャイ・ホン	ペナン	環境、災害復興

<b>15</b>	<b>ミャンマー</b>			
67	MAFS	ベンジャミン・マンゲ	ヤンゴン	水
<b>16</b>	<b>モンゴル</b>			
68	MoAFS	エンフトヤ	ウランバートル	貧困対策
<b>17</b>	<b>ラオス</b>			
69	LPRYU	ワンペン・クンポーライ	ビエンチャン	水、子ども
<b>18</b>	<b>アフガニスタン</b>			
70	AAFS	ラハマット	ジャララバード	貧困対策

---



---

## Ⅲ. 災害・紛争の罹災者に対する生活支援事業

### Ⅲ-A. 災害等罹災者支援事業

#### 1. 災害等罹災者支援事業

##### (1) 災害等罹災者支援事業(緊急支援対応基金)

緊急支援が必要な災害等が起きた際、迅速に初動対応(初動調査)ができるための資金を確保するために、設立した基金。

当会ではこれまで、災害が起きてから支援への募金活動を実施していたが、対応が遅くなるために設けた。1年目は1,157,997円の協力を得ることができた。

##### (2) ネパール中部地震 災害復興支援

**AFS-Nepal** ネパール中部地震 被災地復興支援  
【シンドゥバルチョーク郡インドラワティG.P.10地区(旧ボテンバ村)

2015年4月25日に発生した地震の被災地、被災者に対して、復興及びその後の持続可能な地域づくりを目指し、日本NGO連携無償資金協力の資金により3年計画で、2022年3月24日までの事業により完成した揚水システム(4ヶ所の中継タンク及び送水ポンプ、合計4,582メートルのパイプで最大75,000Lのタンクに揚水、12集落のための飲料水タンク、21エリアのための農業用水タンクに水を満たすことができた。)により、地域全体が世帯毎で給水設備を整え、182世帯に設置が完了した。同時に農業が円滑にできるように促すと共に、第2フェーズ事業の防災事業へつなぐ準備を行った。

##### (3) フィリピン台風被害者支援

**AFS-Pandan, AFS-South Antique** 台風ライ災害復興支援  
【アンティーケ州】

2021年12月16日～18日にかけて大型台風ライがフィリピン中南部を横断し、240万人を超える人々が被災した。AFSと教育省・フィリピン海軍予備軍・地域行政等と連携し、支援チームを結成。パナイ島アンティーケ州の特に被害が大きかった南側、海沿いの地域を対象に、前年度に引き続き、支援物資の配布と家屋が倒壊被害を受けた中で最も経済的に困窮状態にあった50世帯の復旧や補強、再建支援をおこなった。

**FS-Pandan, AFS-South Antique** 台風パエン災害緊急支援  
【アンティーケ州】

2022年10月28日～29日にかけて大型台風パエンがフィリピン中部を横断し、多くの地域で大雨による鉄砲水や洪水、地滑りが引き起こされた。パナイ島アンティーケ州、特に西側(ジバロン・バトノンゴン、ブガソン、ベリソン、ラアアン)では大きな被害が出ており、コロナ禍で困窮している生活の中さらに家財を流され、大きなダメージを受けた。AFS パندانと AFS サウスアンティーケは地域の人々と連携し、特に被害が大きかった地域を対象に支援活動を開始。被災直後は食料品等の緊急支援配布(約550世帯)、その後は学校での食事提供や子どもの学用品支援(約300人)、家屋倒壊世帯へ修繕・建材の支援(約100世帯)等をおこなった。

パナイ島には毎年多くの台風が通過し、地球温暖化の影響からか、年々その規模は大きくなり回数も増えている。生活基盤を立て直せない状況が続いているが、災害時の被害を少しでも減らし、生活を回復させていくために、地域とグリーンスカウト活動との連携に力を入れた。

パندان ギア小学校とサンアンドレス ダムログ小学校でおこなわれた青少年啓発プログラムでは合計271人の生徒が参加。命を守るための活動、「台風を含めた地球環境への理解と環境保全への取り組み、私達が担う役割」、「緊急時の避難や自己安全管理、ファーストエイド」、「学校と地域社会でおこなう安全なクリーン&グリーンな行動計画」、「食の安全と菜園作り」、「相互協力とボランティア活動」等について、ワークショップをおこなった。

また、被災家庭に植物の種や果樹の苗木を配るとともに、生計に関する相談や食料生産・裁縫・料理等の指導も実施。被災者同士の相談窓口や学校をネットワークでつなぐことにより、情報共有したり、互いに励まし合ったりしながら復興を進めている。各家庭の菜園では様々な収穫物が得られるようになり、生計を立て直すにはまだまだ時間が必要だが、毎日家族が食べていけることが大きな心の安定につながっている。

##### (4) コロナ困窮者支援

**JAFS** 国内留学生支援  
【大阪】

コロナや世界情勢により、下向きな経済状況の中、日本滞在中のアジア諸国からの留学生の多くは、就職先に困っている状況となっている。そのために企業とのマッチングを目指した企業紹介会を開催し、日本における生活のベースが作れる支援をおこなった。

##### 海外支援 生活困窮者支援及びリカバー支援

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による長引く規制に伴い、アジア各地では十分な収入を得ることができない状況により生活基盤が不安定になる人々が続出。また、以前活動していた地域開発プログラムがとん挫したことによる地域発展の後退などの問題が起きた。ようやく学校の再開がされはじめ子ども達は、学校へ通える喜びで一杯である一方、学校運営の基盤が不安な状況となり、教育の場としての役割を担えるよう、現地団体の役割が大きく、その活動を支えることが重要となった。また引き続き感染拡大を防ぐために消毒薬などを常備対応が求められた。

そのための対応を3カ国3団体の現地ネットワーク団体と通じて実施した。

支援地域	実施提携団体	支援内容
インド ガッチロリ	RUDYA	学校の運営支援(92人)
ネパール シンドゥバルチ ョーク	AFS-Nepal	学校2校への衛生用品配布
カンボジア タケオ	KAFS	地域活動推進支援 学校への運営支援

## (5)ウクライナ支援(国内)

### JAFS 生活支援

ロシア軍のウクライナ侵攻より避難してきた人たちが関西において安心して暮らすことができるよう、避難民や受け入れを行っている在留ウクライナ人へ聞き取りを行い、在留ウクライナ人コミュニティのメンバーと協力関係を持ち、生活資金の支援、生活物資の頒布会の実施、その後、米や日用消耗品物品支援を引き続き行うと共に、応援している日本人が多いことを伝える為のメッセージカードのプレゼント等を行い、異国での生活が長引く中で、心の安定の一助になる支援を行った。それに先立ち5月にチャリティーコンサートを実施して支援の輪をひろげた。

《チャリティーコンサートの実施》  
ウクライナ支援チャリティーコンサート  
実施日:5月21日  
場所:兵庫県宝塚市大林寺  
演奏者:瀬田敦子さん

《支援内容》  
生活資金支援  
8月30日 物資配布会 於:西船場会館 日用品の収集、ボディークリーム 50  
米 120キロ (家原寺よりの寄贈)  
シャンプー 50本 (美容院よりの寄贈)  
ボディークリーム 50、ハンドクリーム 30

## (6)ネパール防災支援

### JAFS AFS-Nepal 防災・減災支援

「シンドウパルチョーク郡の農村型自治体における防災力強化事業」

防災力の強化を目的とし、2015年の地震の震源地にも近く、主要道路から隔絶された Rural municipality(以下「農村型自治体」)において、自然災害により孤立した際にも、自立した地域となる支援を行う。

災害への事前対策という観点で、住民による防災組織を設立し、防災活動の拠点となるコミュニティセンターと、村内各所に緊急時避難スペースを確保した防災備蓄倉庫を整備する。コミュニティセンターには FM ラジオ局を併設し、各区の放送ステーションと組み合わせた公共放送システムにより、災害リスク情報を共有する。併せて防災知識の啓発やマイ防災マップの作成などにより、コミュニティ力※注記の強化及び人材育成を図り、これらを活用した避難訓練の実施により、事業終了後も防災力を継続させる。加えて、土砂災害リスクの高い箇所では斜面对策を実施し、人命・資産(農地)を守る。このハード・ソフト両面での災害リスク軽減に寄与する取り組みにより、自助・共助による防災力を持ち、災害に強く持続的に成長する農村型自治体を目指す事業を3年間事業としてスタートさせた。

プロジェクト上位目標:コミュニティ力の高まりにより、地域社会が活性化し、高い防災力を持つ農村型自治体が構築され、自助・共助そして公助の連携・協働により災害リスクが軽減し、生活および経済基盤が安定することで、若者が定住し、持続的に発展する地域社会が確立する。

プロジェクト達成目標(3年間の):インドラワティ村において、各地区における防災拠点の運用と防災組織活動及び情報システムの活用により、自立した防災活動が実施され、防災力が向上する。

1年次目標:村全体の防災活動の基盤整備と組織設立、及び防災知識に関する啓発活動

初年度活動:コミュニティセンター整備 / 放送ステーション・アナウンス施設の整備 / 防災組合の構築 / 対象者別の防災知識の習得/マイ防災マップの作成 / 災害図上訓練 (DIG:Disaster Imagination Game)の実施

上記事業の準備を行い、2023年3月18日より1年次事業をスタートさせた。本事業は、R4年度日本 NGO 連携無償資金協力との共同により実施。

## (7)ウクライナ支援

### JAFS 保健支援

「スームイ州トロスタネツカ市立病院の外科エリア再建支援と市民の越冬のための防寒着支援事業」

実施期間:2023年3月30日～6月30日

事業概要:爆撃によって一部機能を失ったスームイ州トロスタネツカ市立病院の外科機能を取り戻すことにより、現状下で負傷した人々の手当、爆撃により負傷した人たちの治療およびリハビリテーションを実施し、日々の健康の為と共に、負傷した人たちが速やかに治療および回復できるための医療機関として整える。併せて、零下10数度になる状況の中、暖房設備や発電機能を失った人々の健康を守るために防寒下着や暖房器具を確保し、人命をまもり、健康を維持できることにより、現地の人々の自国での暮らしを守ることを目指す。上位目標:人道危機であるウクライナの人々が攻撃による治療および健康回復の為に必要な外科的治療、また負傷後のリハビリテーションを受け、人間らしく生きる権利の回復を図ると共に、極寒時をしのぐことができ、人道危機状況下にある人々の健康をまもる。

プロジェクト目標:トロスタネツカ市において、市立病院の外科機能が回復し、人々が適切な治療を受けることができ、リハビリテーションを受けることができる暮らしが再開する。また、防寒着が確保できることにより健康を維持して越冬できる。

実施内容:

1. 市立病院の外科エリア(手術室及びその関係室)の修復
  2. a.リハビリテーション機器の導入による設備の整備  
・リハビリテーションに必要な①電気磁気刺激装置 1基、②衝撃波治療機器 1基、③短波デバイス治療機器 1基、④吊り下げ式ルナ 1基、⑤多機能テーブル手指リハビリ機 1基、⑥理学療法用の治療及び施術台 1基、⑦電機駆動施術台 1基、⑧ペグボード 1基、⑨手動式歩行者 1基、⑩ペダル式訓練機器 2基 を国内外より購入し、市立病院の患者のリハビリテーション実施が出来るように設置する。
  2. b.リハビリテーションチームの構築
  3. 日本の外科医によるコンサルテーションサポート  
・オンラインにて日本の外科医及びリハビリテーション医による相談ができる体制をつくり、必要に応じてまた週に1回定期的に情報交換を行う。合計100時間を実施する。
  4. 防寒用下着の配布と健康チェック
- 以上の事業を R4年度日本 NGO 連携無償資金協力との共同により実施をスタートさせた。





ネパール 地震復興支援の一環事業揚水システムからの給水を得て喜ぶ村人たち



フィリピン 台風から身を守るための安全管理と環境保全の啓発プログラム



フィリピン台風被災世帯へ食事提供のためにつくられた学校の農園



ウクライナ避難民の人たちへ必要な物品を届けるために物資を整える在留ウクライナの世話人のみなさん



ウクライナ支援のための瀬田敦子さんのピアノチャリティコンサート



ウクライナ避難民の方々への支援物資配布会(大阪西区)



ウクライナ避難民への支援物資を世話人の方々へ託して



ネパール 防災事業の実施に向けて各行政との打ち合わせ



## IV. 普及啓発事業

### IV-A. 地域広報活動事業

#### 1. 本部活動

##### (1) JAFSチャリティープログラム

例年、春と秋に住道駅前北側のデッキ広場で開催していたJAFSチャリティーバザールは、雨天のため中止した。

また例年、年末に開催のチャリティーパーティ「アジアン・チャリティーフェスティバル」は、昨年より会場を拡大、飲食も再開し、在関西のアジア人・留学生64名を含む231名の参加により、第7回を開催した。アジアからの留学生・社会人を招き、アジアと相互理解し日本人とアジア人が共生する社会づくりの一助となった。

<第7回アジアン・チャリティー・フェスティバル>

日時：2022年12月10日(土) 10:30～17:00

共催：公益財団法人大阪国際交流センター

場所：公益財団法人大阪国際交流センター

大会議室さくら他、各会議室

参加者数：231名(内留学生(招待)46名、外国人18名)

主な内容：

- ① 映画「セカイイチオイシイ水」上映
- ② マホムッド・ジャケル氏&西亀真氏対談、世界の国歌独唱、他15以上の団体によるステージ
- ③ 5か国の料理のお弁当を提供
- ④ 留学生との交流ゲーム大会
- ⑤ 法人紹介コーナーを初設置
- ⑥ ビンゴゲーム

チャリティー成果：

収益の一部10万円をアジアの子ども支援に寄付した。

実行委員会7月～11月 全16回 開催

##### (2) 国際理解教育講座

NGOが学校や団体の研修の場に入り、相互理解・協力をはかりながら人材を育てていくことを目的に実施している事業。2022年度もNGO活動を通じた学校や団体の国際協力参加について様々な講義・研修を行った。

NGO講師派遣

【のべ12カ所、693名】

- 5月23日 大阪高齢者大学 国際文化交流科 講義(32名)  
「アジアと共に生きる」
- 6月14日 関西大学高等部  
「ネパールという国とNGO活動」(42名)
- 6月16日 大精教看護専門学校 特別講義(38名)  
「ネパール日本の関係、そしてアジアの医療・保健事情とその支援活動」
- 6月23日 大精教看護専門学校 文化人類学特別講義  
「アジアについて、途上国におけるNGOの活動と役割」

「アフリカ について」

- 7月7日 大精教看護専門学校 文化人類学特別講義(38名)「ウイグル編」
- 9月8日 京都暁星高等学校 ネパールとのオンライン学習会(15名)
- 10月5日 龍谷大学 国際ボランティア論特別講師(50名)  
「水の問題と保健衛生～ネパールの事例から～」
- 10月11日 京都西南ロータリークラブ 国際奉仕フォーラム(35名)  
「栄養事業を進めるネパールの国事情」
- 11月11日 京都暁星高等学校 出前授業(120名)  
「支援事業の現場から ネパールにおける水支援と、栄養事業」
- 12月8日 大手前高等学校 国際理解授業(集中セミナー)(15名+教員2名)  
「NGOの現状と活動/私たちの暮らしと国際支援との相互性」
- 1月23日 高槻市立第2中学校 出前授業(30名)  
「アジアの現状とNGO役割と活動」
- 2月10日 大阪市立西船場小学校 出前授業(2年118名、4年120名)  
「パキスタンってどんな国」特別講師アサド氏派遣

##### (3) 国際ボランティア啓発活動

海外プロジェクト報告会の実施。その他、各地区にて支援事業の報告会などを随時実施。又月1回のぞうすいの会にて報告を実施した。地域においてネパール留学生による報告会開催など生の声を聞く機会を積極的に実施し、引き続き開催できなかった総会時の海外プロジェクト報告会にかわる報告会の機会をつくった。

##### (4) アジア文化理解講座

国際協力を身近に感じられる催しを通じて、参加者が国際交流・支援活動への参加につなげることを目的としている。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くのプログラムが中止または延期となったが、各地区では可能な形で随時開催した。

##### (5) 研修生・実習生受入プログラム

大学生インターンシップ及び実習受入

◆JAFSインターンシップ制度

JAFSの人材育成事業としてのインターンシッププログラムに3名が参加し、NGO活動を学ぶと同時に、JAFSの活動への理解を深



める機会とした。また、AYS やオンラインスタディツアー企画などコロナ禍での啓発活動を進めることができた。

- ① 当会インターンシップ募集により以下3名が活動を行った。  
吉備夕姫(立命館大学)2022年11月27日～5月30日  
近藤北斗 9月26日～12月20日  
永田すず 12月5日～1月30日

## (6) 法人関連プログラム

昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、セミナーの開催は実施しなかったが、今年は3年ぶりに主に法人賛助会会員を対象に日本銀行理事大阪支店長高口博英氏によるセミナーと交流会を開催した。

- ・日時:2022年5月20日(金)18:30-20:30
- ・会場:ホテルアウイーナ1階レストラン(大阪市天王寺区)
- ・講話者:日本銀行 理事 大阪支店長 高口博英氏
- ・テーマ:関西経済の現状と展望
- ・参加者:29名

## (7) JAFS 社員クラブ

新型コロナウイルス感染拡大のため3年間開催を見合わせていた「社員クラブ」を新年会として2023年2月3日(金)徐園にて開催した。参加者31名。  
村上事務局長より創設の思いと現代におけるボランティア活動の意義について講話いただき、社員会員同士の親交を深めた。

## (8) JAFS アジア市民大学

JAFS 創立40周年記念行事の一環として、政治経済はもとより自然・社会・文化などについて多角的に、一味違うアジアを探索する場として、2019年1月に第1期を開学。第3期は2021年9月に開講し、終了はコロナ禍のため遅れ、第10-12回は今年度実施した。第4期は2022年10月に開講し2023年3月までに11回開催した。

《第3期》

- ・2022年4月16日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第10回「流動化する中央アジア・南西アジア世界」  
講師:アジア経済研究所 名誉研究員 清水 学氏  
参加者:22名
- ・2022年5月14日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第11回「地政学から見る日本とアジア」  
講師:元国際医療福祉大学国際関係論講師 實 一穂氏  
参加者:24名
- ・2022年6月18日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第12回「中国黄酒のふるさとを訪ねて-紹興・無錫」  
講師:関西大学文学部特任契約教授 野間 晴雄氏  
参加者:13名

《第4期》

- ・2022年9月10日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第1回「ベトナムからアジアの未来の想像から創造へ～持続可能社会への提言」  
講師:日越大学・ハノイ国家大学客員教授 桂 良太郎氏  
参加者:24名

- ・2022年9月24日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第2回「国際交流・環境保全・女性自立・食文化の多目的活動で地域の課題解決を考える」  
講師:聖心女子大学グローバル共生研究所客員研究員 アスタ・トゥラダール氏  
参加者:20名

- ・2022年10月8日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第3回:「ウクライナは今、ロシアはなぜウクライナ侵攻したのか」  
講師:日本ウクライナ文化交流協会 会長 小野 元裕氏  
参加:21名

- ・2022年10月22日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第4回「軍事クーデター以降のミャンマー国内外の情勢と連帯」  
講師:京都精華大学国際文化学部アフリカ・アジア現代文化研究センター特任准教授 ナンマイケカイン氏  
参加者:25名

- ・2022年11月12日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第5回「ロシア・ウクライナ問題からアジアを考える」  
講師:元朝日新聞アジア総局長・中国総局長 加藤 千洋氏  
参加者:28名

- ・2022年11月26日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第6回:「流動化するユーラシア-東欧と南西アジア」  
講師:アジア経済研究所名誉研究員 清水 学氏  
参加者:18名

- ・2023年1月28日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第7回:「日本文化の中のインド」  
講師:JAFS インドクラブ「バーラト会」代表 巽 正憲氏  
参加者:17名

- ・2023年2月4日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第8回「カンボジア-戦後の復興と現在の政治経済状況から国際協力の役割を考える」  
講師:大阪大谷大学人間社会学部教授 岡島 克樹氏  
参加者:22名

- ・2023年2月18日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第9回:「多文化共生社会の光と影」  
講師:大阪電気通信大学人間科学研究センター 准教授 王 少鋒氏  
参加者:18名

- ・2023年3月11日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第10回「世界情勢から朝鮮半島・日本・アジアの未来を考える」  
講師:コリアンワールド 代表 李 相善(イ・サンソン)氏  
参加者:19名

- ・2023年3月25日(土)14:00-16:30 官報ビル8階  
第11回:「地政学から見る日本とアジア 戦後編」  
講師:元国際医療福祉大学国際関係論講師 實 一穂氏  
参加者:20名  
\* 終了後懇親会実施。

## (9) 第3回日本語スピーチコンテスト

アジアと日本の絆を深める活動の一環として、40周年記念行事として2019年に第1回を開催。今年度は第3回日本語スピーチコンテストを開催した。

日時:2022年10月16日(日)14:00-16:00

会場:クレオ大阪中央セミナーホール(大阪市天王寺区)

後援:(公財)大阪国際交流センター、  
(公財)大阪国際交流財団

出場者:留学生13名(ベトナム、ミャンマー、バングラデシュ・タイ、ネパール)

関係者他:全51名(内審査員7名、特別審査員2名)

内容:留学生スピーチ(日本に来て感じたことなど)

結果:最優秀賞1名(アウン・キャー・スワーさん、ミャンマー)

優秀賞1名(ヤミン・ティリ・キッさん、ミャンマー)

奨励賞1名(ホアン・ティ・チュエンさん、ベトナム)

観客賞1名(アウン・キャー・スワーさん、ミャンマー)

## (10) JAFS SDGs セミナー

SDGs 目標達成期間の折り返し地点を迎え、一人ひとりの理解と行動で私たちの地球をまもることを確実に推進していく必要がある。そのために限りある資源を将来的につなげていき、サステナブルな未来のために私たちができることを共に考え、行動につなげる機会とするために“日々の暮らしの中で見つけていきたいテーマ”について、実践者よりオンラインにて話を聞くセミナー。第2弾のテーマは、～私たちの暮らしから考えるSDGs～ 4回シリーズで企画し、第2弾の3回～4回を前年度の引き続いて開催した。

第3回:4月14日(木)18:00～19:15

テーマ:「ステハジ」プロジェクト

～私の、私たちの、みんなの給水スポット～

講師:(株)OSG コーポレーション 毛洲雅博氏

参加者:22名

第4回:5月11日(水)

テーマ:身近な環境問題と私達ができること

～淀川での活動報告～

講師:パナソニック エコリレージャパン 事務局長 山口進氏

参加者数:15名

## (11) JAFS 日本語サポート

2022年6月より、西船場小学校にて、外国にルーツがある児童で、日本語指導が必要な児童を対象に、日本語サポート活動を開始した。対象児童は9人で、週1コマの日本語サポートを行っている。それぞれの学習能力に応じた授業内容を作成し、学校の授業や学校生活、日本での生活に少しでも馴染めるようサポートを行った。

## (12) 大阪マラソン チャリティ団体活動

2023年2月26日に行われた大阪マラソン2023に、チャリティ団体として参加。12名のチャリティランナーが出場した。走ることが国際協力への参加につながる。

## (13) 「水」写真コンテスト

3月22日の世界水の日に伴い、水について改めて考えても

らうきっかけをつくる・与える機会として、「水」写真コンテストを開催。第1回と第2回「水」写真コンテストを実施した。第1回は2021年に募集を行ったがコロナの影響により本年度に延期をした。

(第1回)

テーマ「水と私たち」

応募数:24点

写真展及び審査会:2022年5月22日～24日

会場:肥後橋官報ビル8階

審査結果

- ・最優秀賞:To every drop water, there is a story of life(水滴の数だけ、命の物語がある) (レシナ・バジュラチャルヤ、ネパール)
- ・優秀賞:Being girl child in village comes with huge responsibilities-大きな責任を背負う村の女の子- (オム・クリシュナ・タンドゥカール、ネパール)
- ・優秀賞:We never know the worth of water until the well is dry-井戸水が枯れて初めて水の価値を知る- (オム・クリシュナ・タンドゥカール、ネパール)
- ・佳作:水と都市 (小出由美、沖縄)
- ・佳作:水と灯 (齊藤 誠、大阪)
- ・佳作:They don't need gym to be fit-健康のためのジムはここでは必要ない- (レシナ・バジュラチャルヤ、ネパール)

(第2回)

テーマ「日常の中の水」

応募数:192点

一次審査:2023年2月8日 20作品選出

写真展及び第2次審査:2023年2月16日～27日

会場:大阪・阪急うめだ本店 9階祝祭広場

審査結果:3月22日世界水の日にホームページにて発表

- ・最優秀賞(1位):命の水 (小出由美、沖縄)
- ・優秀賞(2位):Precious as drops, priceless as an ocean, Cherish every drop of this liquid gold-雫、海のように貴重な水。輝く一滴一滴の水を大切に (レシナ・バジュラチャルヤ、ネパール)
- ・3位:みんなで水汲み (高橋 優)
- ・4位:千年の水 (高島 賢)
- ・5位:畑の虹。(須田康之)

## (14) 関連プログラム/その他団体協力

### ◆(特活)関西NGO協議会

加盟し、理事として運営に関わった。各種催しに出席及び協力活動を行った。特に、常任理事会(副代表理事)に関わり、調整業務にも協力した。

理事会/常任理事会 基本2か月毎の出席

KANSAI SDGs 市民アジェンダを進め、関西地域においてSDGsの普及推進、JICA 関西とNGOとの連携推進に協力。

同時に以下の3項目に関しても関西NGO協議会の役割を担っている。

- ① NGO-外務省連携推進委員:関西のNGOと外務省の窓口の役目を担うと同時に外務省との会議に出席。
- ② 関西SDGsプラットフォーム運営委員
- ③ ワン・ワールドフェスティバル for Youth の運営委員

協力イベント

- ① Summer SDGs Festival for Youth 2022  
開催日:8月20日(日)  
場所:大阪YMCA 2階ホール  
ブース出展及び活動紹介  
参加者:155名
- ② ユースのためのオンラインスタディツアー×国際交流プログラム ネパールツアー  
テーマ:ネパールのユースと「私たちが作りたい社会」についてディスカッションしよう SDGs4・5・6・11・12  
開催日:10月22日(土)  
参加者:日本側11名、ネパール側12名  
実施方法:オンライン
- ③ ワン・ワールドフェスティバル for Youth 2022  
～私たちが描く持続可能な社会の未来図～  
開催日:12月18日(日)  
場所:大阪YMCA 及びオンライン特設会場  
プログラム参加「暮らしの中の水について考えよう」  
プログラム参加者:30人  
全体参加総数:1,300人(延べ)

◆(特活)関西国際交流団体協議会

- 1) 加盟し、監事として協力した。
- 2) ワン・ワールドフェスティバル: 第30回ワン・ワールドフェスティバルに実行委員会の一員として参加した。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインとリアル併行開催となった。  
期間:2023年2月4日(土)~5日(日)リアル開催  
2月1日(水)~28日(火)はオンライン配信  
会場:北区民センター・カンテレ扇町スクエア・山西福祉記念会館・扇町公園  
リアル会場来場者数:24,500人  
オンライン視聴数:25,000回  
主催:ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会  
テーマ:共に生きる世界をつくるために、一人ひとりができること～誰ひとり取り残さない社会の実現のために～  
参加団体数:176団体(会場112団体・オンライン64団体)  
参加プログラム総数:140プログラム  
\*JAFSは会場にブース出展した。

◆(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)

正会員として加盟し、2019年より理事として運営に関わった。  
特に正会員委員会、地方ネットワーク委員会の委員として実際の運営調整委員としての役割を担っている。

◆関西国際交流ボランティアネットワーク会議(KIV-NET)

加盟し、運営委員として協力活動を行っている。

◆認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)

NGOユニット参加団体として加盟し、緊急支援時の協力関係を持っている。

◆近畿労働金庫 地域共生推進室

協力関係を持ち、生協などの講師登録を行ったが、2022年度は依頼が無かった。

◆一般財団法人H<sub>2</sub>Oサンタ

2023年2月16日~27日 H<sub>2</sub>Oサンタ 第16回NPOフェスティバル(阪急百貨店 祝祭広場)に参加。活動出展、第2回「水」写真コンテスト、ステージでのチャリティトーク、募金により井戸建設事業へと充てた。これまでの支援によりネパールに1基井戸が完

成。インドに1基の支援を実施。

◆日本環境法律家連盟(JELF)

加盟し、加盟団体との情報共有、「みどりの遺言」セミナー開催に向けての全体会議に参加した。



第7回アジア・チャリティ・フェスティバルの様子



3年振りに開催した社員クラブにて、参加者のみなさんと



日銀高口大阪支店長卓話&交流会 記念写真

## 2. 地区活動

各地域の地区世話人を中心に、本会の活動や理念の普及を計ると共に、アジアに「理解と協力と連帯」の輪をひろげることを目指し地域の催しにも協力しながら活動をした。

- 第 1 エリア: 大阪府北部、兵庫県東北部
- 第 2 エリア: 大阪府東部
- 第 3 エリア: 大阪市内
- 第 4 エリア: 大阪府東南部
- 第 5 エリア: 京都府、滋賀県
- 第 6 エリア: 兵庫県(一部大阪近辺を除く)
- 第 7 エリア: 奈良県、東大阪市、八尾市、和歌山県、三重県
- 第 8 エリア: 大阪府西南部
- 第 9 エリア: 西日本
- 第 10 エリア: 東日本
- 第 11 エリア: 東海、北陸・甲信越等

### (1) 会員拡大・地域広報活動委員会

2022 年度も、昨年引き続き地域の役員(地区世話人)を中心に、会員拡大・地域広報活動委員会を開催し活動を推進した。

開催日と参加者数:

- 第 1 回:9 月 2 日(金)11 名
- 第 2 回:9 月 30 日(金)8 名
- 第 3 回:11 月 14 日(月)9 名
- 第 4 回:12 月 14 日(水)7 名
- 第 5 回:1 月 27 日(金)7 名
- 第 6 回 2 月 28 日(火)9 名

#### ◆地区会長会

2023 年1月 14 日(土)10:30-14:00

会場:北京料理徐園

参加者:13 地区より 28 名

内容:

- ① 卓話「地区活動の考え方・進め方」  
村上公彦事務局長
- ② 各地区近況報告
- ③ 10 年間の JAFS 会員数の推移と課題
- ④ 懇談・交流会

### (2) 地区世話人一覧

エリア	地区	氏名
1	尼崎	黒谷侑子
	池田	石原基義
	吹田摂津	高田晃宏
	高槻	伊藤エリサ、川上礼子、佐々寿子、榎田敏弘
	茨木	金井 英夫
2	寝屋川	笠谷正博、根津千枝子、畠山ひろみ
	枚方	明見睦子、天野由紀代、船戸康夫、佐々木 実
3	なにわ東	奥 眞里子、杉本 牧子、濱崎佳尚、毛利吉男

	なにわ西	伊藤 勝、落合朋子、風早正夫、風早茂都子 篠塚達朗、
	なにわ南	實 清隆、木 泰輔 出口貴之、中西豊次
4	河内長野	渡邊 喜久次、新谷百代、丸井和子、橋本洋一
	松原	橋本末子、谷岡康男
	富田林	真嶋克成、春田希代子、渡辺治彦
5	京都市	安宅義人、辻 賢二、福井えり、柳井一朗
	八幡	福川 肅、毛利吉男
6	三田	堀 正之
	西宮	平山隆史
	神戸芦屋	岩崎準一、橋本 隆
	姫路	荒川鉄也、中尾和子、森 梢
7	生駒郡	林 昭宏
	生駒市	野池 徹、有山加代子、山田穂積
	奈良市	伊藤 誠、福岡名津子、渡邊瑠璃子
	新宮	瀧野秀二・三重子
8	堺高石	佐藤満昭
9	広島	宇田和博
10	東京	川崎隆二
11	愛知	壁谷桂子、清水三千夫

### (3) 第 1 エリア

【高槻・島本地区】伊藤エリサ、川上礼子、佐々寿子、大原映子、田辺麻里

今年度は、7 月 30 日(土)に第 7 回アジア・ホームパーティをバンングラデシュのジャケルさんと留学生を招いて多文化共生をテーマに開催。11 月 20 日(日)には、インド・コスモネクタン学園支援のカレー懇親会を開催。3 月に 2 万円を寄贈した。

7 月 30 日 第 7 回アジアホームパーティ開催  
バンングラデシュ編 多文化共生を考える  
参加者:25 名

11 月 20 日 第 8 回アジアホームパーティ開催  
インド編 コスモネクタン学園支援  
参加者:26 名

<定例会> 原則毎月第 1 または第 2 日曜日(13:30~15:30)開催 場所:クロスパル高槻または近辺のカフェ

### (4) 第 2 エリア

【第 2 エリア合同】

<“JAFS 北河内 緑とふれあう会” > 会長:笠谷正博

04/09 ①じゃがいも間引き、追肥 ②玉葱畝の草取り他 参加 8  
04/23 ①じゃがいも芽かき土寄せ ②南瓜、ピーナツ、つるむらさき植付け 参加 10

※作業終了後「ふれあう会」総会開催

5/7&9 ①緊急で玉葱、豆類の収穫 参加 3

05/14 ①収穫:玉葱、スナップエンドウ ②(さつまいも畝の準備)他 参加 9

05/28 ①収穫:そら豆、②植付け:さつま芋、③種まき:黒豆、参加 8

06/11 ①じゃがいもの試掘(15Kg) ②追加植付け:さつま芋、③草取り他 参加 8



06/25 ①じゃがいもの収穫(71Kg) ②草取り他 参加 8  
 07/09 ①収穫:枝豆、ミニトマト、南瓜、②周辺草取り他 参加 8  
 07/23 ①草取り他 参加 6  
 08/06 ①大根の畝作り ②草取り他 参加 8  
 08/27 ①大根の畝作り ②収穫:イチジク、ナス、南瓜、③草取り他 参加 9  
 09/10 ①大根の種まき ②南瓜、イチジク収穫 ③草取り他 参加 9  
 09/24 ①大根の追加種まき ②赤カブ種まき ③草取り他 参加 8  
 10/08 ①さつま芋、黒豆収穫 ②玉ねぎ用畝作り ③草取り他 参加 8  
 10/21 ①さつま芋、黒豆収穫 ②整地作業 ③草取り他 参加 10  
 11/12 ①玉ねぎ植え付け ②白菜、たかな、植付け ③収穫:落花生、菊芋 参加 6  
 11/26 ①収穫:ミカン、冬瓜、カブ、②草取り他 参加 7  
 12/10 ①収穫:ミカン、カブ、白菜 ②草取り 参加 8  
 12/24 ①収穫:ミカン、大根、シークワサ ②ミカン追肥 ③草取り 参加 8  
 01/15 ①周辺雑草取り、片付け 参加 6  
 01/28 ①ミカン追肥 ②ジャガイモ用畝作り ③雑草取り、追肥 参加 8  
 02/11 ①ジャガイモ用畝作り ②草取り、追肥 参加 7  
 02/25 ①ジャガイモ植付け(7Kg) ②草取り、追肥 参加 8  
 03/11 ①片付け清掃 ②草取り、追肥 参加 9

※3年前から継続しているコロナ蔓延で集団活動に制約がかかって、子供たちの参加や、新規参加が少なかったため農作物の収穫も減少傾向であった。

※定例農園作業は第2・第4土曜日 3~5月 8:00~11:00、6~9月 7:00~10:00、10~11月 8:00~10:00、12~2月 9:00~12:00  
 天候・作物の状態・JAFS 及び地区活動の関係等でやむを得ない場合変更あり。また臨時作業日もあり。

※有志による薬物野菜の移設や植付け、草刈り、生け垣の剪定、追肥、土寄せ、芽かき等 多くの作業が随時行われている。

※ 月 2 回の作業報告は、ブログ <https://blog.goo.ne.jp/midori-hureauai> を見てください。

(または「JAFS 北河内緑とふれあう会」で検索)

※ 当会の活動はどなたでもいつからでも自由に参加できます。

#### 【枚方】 明見睦子、天野由紀代、船戸康夫、昆文彦

6月3日 地区世話人会 南部生涯学習市民センター  
 7月19日 地区世話人会 南部生涯学習市民センター  
 10月11日 地区世話人会 南部生涯学習市民センター  
 10月23日(日) ひらかた NPO フェスタ 2022  
 於:サプリ村野  
 展示及びアジア民芸品チャリティ販売出展参加  
 地区世話人会(5月の寝屋川との合同イベントについて)  
 3月10日(金) ネパールへ井戸を贈ることをめざして活動を行った。

#### 【寝屋川】 笠谷正博、根津千枝子、畠山ひろみ

6月19日 地区世話人会  
 於:尼崎市生涯学習センター中央北プラザ  
 10月2日 市民活動センターふれあいフェスタ(活動展示) 於:市民活動センター  
 11月19日 ねやがわ多文化フェスタ(模擬店担当実行委員) 於:市民会館  
 12月3日 市・人として当たり前生きる権利を考えるつどい(活動展示) 於:市民会館

2月2日 ふらっとねやがわ連絡会(活動報告)  
 於:ふらっとねやがわ  
 3月10日 JAFS枚方地区・寝屋川地区合同世話人会 於:枚方楽寿荘  
 3月26日 地区世話人会 於:市民活動センター  
 ネパールへバイオガスピラント支援することを目標に活動しているが、コロナの規制により、展示や PR 活動を主に行った。

### (5) 第3エリア

【大阪市なにわ西】 沖本然生・齋藤公代・伊藤 勝・新羅和子・篠塚達朗・風早茂都子・風早正夫・鳥居京子・西田愉子・唐沢裕司(2月から参加)。

例会は JAFS 5 階会議室で開催

#### 【2022 年度総括】

コロナ禍が継続していたが、なにわ西の活動は大阪おもしろウォーク、歴史散歩等屋外での活動が中心で、比較的影響は少なかったと言える。今年度も 10 万円を JAFS に寄付する目標を建て、なんとか達成することができ、11月の支部会で決定し、11月17日に JAFS に納付した。

4月10日 福知山線廃線跡と武庫川溪谷を歩いて桜を見る  
 伊藤を除き 11 名参加 収益 11 名x1,000 円 = 11,000 円  
 4月22日 なにわ西支部例会 出席 7 名  
 4/10 実施のイベントの報告と今後実施のイベント予定  
 5月14日 大阪おもしろツアー 天王寺・七坂を歩くその1  
 沖本先生を除き 13 名参加 13,000 円  
 5月17日 なにわ西支部例会 出席 8 名  
 実施イベントの打合せ  
 5月28日 京都東山散歩:南禅寺・永観堂から哲学の道  
 経由銀閣寺へ  
 伊藤を除き 13 名参加 1,600-拝観料 600 円 = 1000x13=13,000 円  
 6月12日 宇治歴史散歩:宇治十帖からアジサイの三室戸寺へ  
 伊藤を除き 8 名参加 8000 円-伊藤の拝観料 1,000 円 = 7,000 円  
 7月12日 なにわ西支部例会 出席 7 名  
 9月実施イベント決定  
 9月20日 なにわ西支部例会 出席 9 名  
 11月実施イベントの決定  
 9月24日 天王寺七坂巡りウォーク南エリア 沖本先生を除き 22 名参加 22,000 円  
 10月11日 なにわ西支部例会 出席 6 名  
 12月忘年会決定  
 2023.1 月 2 月はウォークに不向きなので、特に意見出さず。  
 11月5日 京都太秦歴史散歩:「渡来人秦氏の足跡をたどる」伊藤を除き6名参加 収益 6,000 円  
 11月8日 なにわ西支部例会 出席 7 名  
 10 万円資金が集まったので JAFS への寄付決定。11月17日 JAFS へ寄付金 10 万円  
 貧困対策指定寄付(インド)  
 2023 年  
 1月17日 なにわ西支部例会 出席 8 名  
 4月1日大阪おもしろウォーク実施決定

- 2月28日 なにわ西支部例会 出席6名  
沖本さん One Coin セミナー24名参加
- 3月14日 なにわ西支部例会 出席8名  
沖本さん One Coin セミナー2回目22名参加  
洛北散歩 5/14→5/27 開催決定

**【大阪なにわ南】中西豊次、出口貴之、木本泰輔、實清隆**

生活介護施設ハピネスノアノア(大阪市平野区)に5月にオープンしたノアノアカフェを拠点とするイベントを開催した。新型コロナウイルス感染拡大のため、何度か延期を余儀なくされたが、2022年度は3回開催し、地元住民や多くの子どもたちにも参加いただき地域に開かれた活動を実施できた。

- 5月28日 第1回ノアノアフエスタ ノアノアカフェ オープン記念講演会&パーティ  
講師:盲目のセラピスト 西亀 真氏&ジャケル氏  
アトラクション:ハピネスノアノアメンバーの歌とダンス他  
場所:ノアノアカフェ  
参加者:約50名+子ども多数
- 10月29日 第2回ノアノアフエスタ 講演会&パーティ  
講師:日越大学客員教授 桂 良太郎氏  
アトラクション:押鐘寧氏エアロフォン演奏他  
場所:ノアノアカフェ  
参加者:25名+子ども多数
- 12月10日 第7回アジア・チャリティ・フェスティバル出展  
12月24日 第3回ノアノアフエスタ ノアノアカフェ クリスマスパーティ  
場所:ノアノアカフェ  
参加者:30名+子ども多数

**(6) 第4エリア**

**【河内長野・大阪狭山市】渡邊喜久次、飯坂 保、今井利子、新谷百代、白井春夫、丸井和子**

- 2022年
- 9月15日 富田林・河内長野合同世話人会 場所:モダカ  
内容:10月に富田林地区会と協賛で映画会を開催の為、合同世話人会。  
参加者:5名
- 10月15日 13:00~15:00  
「セカイチオイシイ水」の映画鑑賞  
場所:上堂本店(醤油蔵跡)  
参加者:40名

**【南河内・松原地区】橋本末子、谷岡康男**

地域に住んでいる外国にルーツを持つ子ども達の交流会を通し大学生、青年、次を担う高校生がつながれる場づくり、多文化共生社会を目指して活動

- 4月16日 カラフルキッズ  
場所:はーとビュー  
参加者:70名
- 5月21日 カラフルキッズ(友だちづくり)  
場所:はーとビュー  
参加者:50名
- 6月18日 カラフルキッズ(世界のことを知る①)  
場所:はーとビュー  
参加者:58名
- 7月2日 子ども国際交流ひろば  
場所:松原市立中央小学校  
参加者:43名

- 7月16日 カラフルキッズ(違いを認め合う①)  
場所:はーとビュー  
参加者:20名
- 9月17日 カラフルキッズ(先輩から聞き取り)  
場所:はーとビュー  
参加者:70名
- 10月15日 カラフルキッズ(違いを認め合う②)  
場所:はーとビュー  
参加者:児童20名、大人10名
- 11月12日 カラフルキッズ(世界のことを知る②)  
場所:はーとビュー  
参加者:48名
- 11月28日 ボランティアまつり活動紹介パネル展示  
~12月2日 場所:松原市役所ロビー
- 12月3日 カラフル子ども国際交流ひろば  
場所:松原第6中学校  
参加者:21名
- 12月17日 カラフルキッズ(命の水から世界を)  
場所:はーとビュー  
参加者:71名
- 1月28日 カラフルキッズ(伝え合おうマイメッセージ)  
場所:はーとビュー  
参加者:56名
- 2023年  
2月18日 カラフルキッズ(第3中校区祭)  
場所:松原市第3中学校  
参加者:20名
- 3月18日 カラフルキッズ(卒業おめでとうメッセージ交流)  
場所:はーとビュー  
参加者:50名

★スタッフ会議は、毎月、松原総合福祉会館にて開催。

★松原ボランティア連絡会月例会出席

**【富田林】真嶋克成、古川光照、岡本修、渡辺治彦**

- 2022年 富田林地区役員会 年間行事計画打合わせ  
4月23日 参加者2名  
場所:沖田・渡辺電話にて打合せ  
議事録を関係役員へ連携 以降、年内(~12月)はコロナ禍で活動休止
- 2023年  
1月7日 富田林地区役員会  
場所:千代田駅前 参加者 名  
金剛山・雪中登山
- 2月11日 場所:河内長野駅前集合-金剛山山頂  
参加者:11名
- 3月12日 富田林地区会 寺内町 雛めぐり  
場所:近鉄富田林駅前~寺内町界限  
参加者:9名
- 毎月28日 滝谷不動縁日  
バザー<7.8.9月は猛暑のため休止>  
場所:近鉄 滝谷不動駅前 参加者:2名

**(7) 第5エリア**

**【京都・宇治・野洲・八幡】辻賢二、金井英夫、福井えり、柳井一朗、安宅義人、井上勇一、木川喜代司、若廣啓史、他谷尚、福川肅、毛利吉男】**

- アジアの子ども達の教育支援を目的に下記の活動を実施した。
- 4月18日 京都地区会 場所:洛南教会 参加者:7名  
4月23日 京都チャリティウォーク

『新選組ゆかりの地京都・壬生を歩こう』  
 場所:京都市壬生周辺 参加者:18名  
 6月6日 京都地区会 場所:洛南教会 参加者:7名  
 6月18日 第5回竹中真京都チャリティピアノコンサート  
 場所:洛南教会 参加者:49名  
 7月10日 京都地区勉強会  
 講師:村上公彦事務局長  
 場所:洛西教会 参加者:32名  
 7月29日 京都地区会 場所:洛南教会 参加者:6名  
 9月5日 京都地区会 場所:洛南教会 参加者:6名  
 10月11日 京都地区会 場所:洛南教会 参加者:7名  
 11月3日 Kokoka オープンデイ 2022  
 活動紹介ブース出展  
 場所:京都市国際交流会館  
 11月12日 アンサンブル YUFU 午後のコンサート  
 場所:洛南教会 参加者:43名  
 京都地区会 場所:洛南教会 参加者:7名  
 11月23日 バザールカフェ フィエスタ出展・活動紹介  
 場所:バザールカフェ  
 12月3日 京都チャリティウォーク  
 『平安の歴史が息づくまち  
 京都・宇治を歩こう』  
 場所:宇治市 参加者:11名  
 11月～ シュートレンドで子どもの教育支援!  
 12月 協力 303 口  
 12月10日 第7回アジアンチャリティフェスティバル出展  
 1月17日 京都地区会 場所:洛南教会 参加者:7名  
 3月6日 京都地区アジア勉強会 場所:洛南教会  
 『JAFS で歩み始めた第2の人生  
 ～社会人時代の経験を活かして～』  
 講師:天野紀氏 参加者:12名  
 3月30日 京都地区会 場所:洛南教会 参加者:7名

## (8) 第6エリア

### 【西宮】平山隆史

11月30日～ 活動パネル展示(「水」写真コンテスト)  
 12月5日 場所:西宮市国際交流協会ロビー(フレンテ西宮)  
 2023年 西宮国際交流ディに参加  
 2月4日 活動パネル展示、アジア雑貨等、販売  
 場所:フレンテ西宮

### 【三田】堀正之、新城綾奈

11月23日 第25回フレンドシップディ参加  
 場所:三田市国際交流協会

## (9) 第7エリア

### 【奈良市】渡邊瑠璃子、伊藤誠、和田達生、福岡名津子、嶋崎稜子、篠木精治、嶋崎貴行、古本靖久、古本みさ

5月15日 トリアンチャリティバザール IN まどか村 フリーマーケット出店  
 場所:生駒市まどか村 参加者:5名  
 6月6日 奈良地区会第2回会議 場所:奈良市奈良基督教会  
 ドングリフェスタの話し合い・今後の活動について 参加者:6名

7月19日 夏季募金 2000円  
 8月1日 奈良鹿愛護会に後援名義使用申請  
 8月5日 奈良地区会第3回会議  
 場所:奈良市奈良基督教会 参加者:6名  
 9月7日 奈良地区会第4回会議  
 場所:奈良市奈良基督教会 参加者:7名  
 10月14日 JAFS 本部に村上公彦局長を訪問  
 10月20日 朝日新聞奈良版に「どんぐり拾い」の告知記事を掲載  
 10月23日 奈良基督教会の「子ども祝福祭」でどんぐりフェスティバルのチラシまき  
 場所:奈良市 奈良基督教会 参加者:3名  
 10月25日 奈良地区総会  
 場所:奈良市八百萬之茶屋 参加者:12名  
 11月3日 どんぐりフェスプレイベント・どんぐり拾い  
 場所:奈良市平城旧跡 参加者 11名  
 11月7日 奈良ドットFMの番組に出演し、「JAFS どんぐり拾い」の宣伝をする。  
 11月12日 「JAFS どんぐりフェスティバル 2022」開催  
 場所:奈良市奈良基督教会 参加者:22名  
 12月12日 奈良地区会第6回会議  
 場所:奈良市奈良基督教会 参加者:7名  
 12月14日 坪坂寺常盤住職を訪問・活動打合せ  
 奈良の鹿愛護会にどんぐりを寄付(211.7Kg)  
 1月14日 JAFS 地区会長・世話人会(新年会)参加  
 参加者 3名  
 1月16日 奈良地区会第7回会議  
 場所:奈良市奈良基督教会 参加者:7名  
 2月20日 奈良地区会第8回会議  
 場所:奈良市奈良基督教会 参加者:7名  
 2月26日 冬季募金 2000円  
 3月27日 奈良地区会第9回会議  
 場所:奈良市奈良基督教会 参加者:7名

### 【生駒市】野池徹、山下良一、有山加代子、沢田薫、鈴木信克、山田穂積、伊藤ヒサ

4月2日 森のコンサート 場所:鹿ノ台中央公園  
 4月7日 ライブ&バザール 地区会後援で実施  
 4月15日 地区会議 場所:鎌倉パスタ  
 4月17日 トリアンチャリティバザール IN まどか村 フリーマーケット出店  
 場所:生駒市まどか村  
 5月2日 Line 会議 9/4 生駒チャリティイベントの件  
 5月15日 トリアンチャリティバザール IN まどか村 フリーマーケット出店  
 場所:生駒市まどか村  
 5月18日 地区会議 場所:鎌倉パスタ  
 9/4 チャリティイベントの件  
 6月2日 Line 会議  
 6月13日 地区会議 場所:鎌倉パスタ  
 9/4 チャリティイベント 収支計画説明検討  
 6月19日 トリアンチャリティバザール 出演  
 場所:讃良会館  
 6月26日 Line 会議 9/4 生駒チャリティイベントを本部に広報  
 7月10日 地区会議 場所:鎌倉パスタ  
 7月17日 トリアンチャリティバザール 出演  
 場所:讃良会館  
 7月20日 地区会議 場所:鎌倉パスタ

	チケット振り分け
8月3日	地区会議 場所:鎌倉パスタ
8月19日	地区会議 場主:鎌倉パスタ
9月3日	地区会議 場所:鎌倉パスタ
9月4日	生駒チャリティ・フェスティバル&バザール開催 場所:イスタはばたき 会議 反省会
9月7日	ららまつり第1回実行委員会参加
10月16日	ドリアンチャリティバザール 出演 場所:マナリ村
11月20日	ドリアンチャリティバザール 出演 場所:マナリ村
12月10日	JAFS アジアン・チャリティ・フェスティバル に参加
12月18日	ドリアンチャリティバザール 出演 場所:マナリ村
2023年	
1月15日	ドリアンチャリティバザール 出演 場所:マナリ村
2月5日	ららまつり参加 場所:イスタはばたき
3月19日	ドリアンチャリティバザール 出演 場所:マナリ村

## (10) 第8エリア

### 【堺市・高石市・和泉市】佐藤満昭

毎月不定期	佐藤手芸教室バザー 個人宅にて、教室メンバー、知人相手に小規模バザーを不定期に開催し、収益は夏季・年末募金・JAFS 支援に寄贈した。
2023年	第4回チャリティ玉手箱展を支援した。
1月10日～29日	新春チャリティ展として連続24日目。 併設:期間内土日開催 個人ミニバザー 画廊いろは様からの寄付とは年末募金、ネパール井戸建設に寄贈。またミニバザーを行い、年末募金、フィリピン災害支援に寄付。場所:堺市甲斐町ギャラリーいろはに

## (11) 第9、10エリア

### 【関東】石田雅昭、岩田芳晴、端無勝、田中壽美子、高岸泰子、佐藤理香、田中政直、原京、森山涼子、本間一将、横田恭子、川崎隆二

- ・会則の整備、定例会の毎月開催などを通じ、運営基盤を整えると共に、Zoom の活用、オンラインセミナー開催など、with コロナ下の活動体制を、整えることが出来た。サブスクリプション型のオンラインコンサートや、参加申込・寄付受付のオンライン化、LINE 公式アカウントの開設など、ネットワークを活用した新たな取り組みを進めた。
  - ・イベントへの参加率が低く、参加者が固定化され、新規活動メンバの獲得が進まないなど、活動の活性化には課題が残った。
  - ・JAFS 本部・海外と共に開催された「海ごみ拾い」に JAFS 関東として参加。
  - ・「瀬田敦子オンラインサロン」の収益で、「瀬田敦子オンラインコンサート基金(里子支援)」への支援金拠出に加え、支援プロジェクトであるパダトラ小学校の5人の里子支援の継続が可能となった、
- 委員会開催:12回  
○支援プロジェクト:日印友好学園パダトラ小学校の5人の里子支援

## ○主な活動

- ・インドの生理小屋の問題に関するオンラインセミナー 5/28, 6/11, 6/25 (延べ参加者:62名) 菊池美智子さんに協力いただき、開催。SPARSH/AWON との連携で活動の幅が広がるとともに、HP での情報発信を通じ、一定の注目度を得られた
- ・海ごみ拾い(ブルーオーシャン作戦) 4/16, 11/19、一回目) 参加:44名、二回目) 参加:57名
- ・チャリティウォーク(浅草/上野公園) 10/29, 12/10、一回目) 参加:8名、二回目) 参加:5名
- ・グローバルフェスタ出展(東京国際フォーラム) 10/1-2 JAFS ブースへの来訪者:約100名、アンケート回収:21名、F-up セミナ開催(11/12) 7名参加。パダトラ小学校の卒業生によるビデオレターや学校生活の紹介動画を作成し、YouTube でも配信、多くの参加者に興味を持ってもらうことが出来た。
- ・瀬田敦子さんオンラインコンサート配信 5月～ 毎月300円の会費で、2回/月のオンライン楽曲配信(22年度は21回配信)、ポーランドの瀬田さんと繋がる Zoom 交流会を毎月開催、会員数:34名

## 3. 広報

### (1) アジアネット

アジア各地で様々な支援活動を展開している本会の事業を、年4回発行の会報「アジアネット」誌面で紹介した。会員や寄付者などの支援者に「アジアネット」を送付し、支援に対する報告をするとともに、新たに本会を知る人を増やすべく、全国の国際関連施設の情報コーナーなど公開スペースに向けても送付した。またホームページでも広く公開した。

#### 《アジアネット発行実績》

#### ◆150号 2022年7月発行 (36ページ、4,500部)

- 表紙写真 戦禍に苦しむウクライナの人々を支援するチャリティコンサート
- 巻頭言 情報の大海原を航海する時代
- 特集 広がるウクライナ支援の輪
- ネパール揚水システム、村人の手に
- コロナ募金報告
- ブルーオーシャン作戦、一歩ずつ
- 中学寮改築・栄養士留学 支援のお願い
- 農地と森再生、フィリピンの村の取り組み
- JAFS プラザ 国内の活動
- 第1回「水」写真コンテスト入賞作
- 井戸寄贈報告
- 2021年度の活動報告/2022年度の実施予定
- 水、貧困対策、環境、子ども、国際交流、罹災者支援、国内での普及啓発
- 2022年度 社員総会報告
- 新入会員紹介・領収報告
- 新・The 社会貢献 法人会員紹介
- 環境コラム、編集後記

#### ◆151号 2022年10月発行 (28ページ、4,500部)

- 表紙写真 経済危機のスリランカで、差し入れのビスケットに殺到する人々
- 巻頭言 命と心の大切さ 家族で話し合い
- 特集 スリランカの経済危機



- フィリピン台風被災地支援報告
- 馬と生きるネパールの村にエール
- ネパール「朝日読者の森」の20年
- 異国からウクライナの平和祈る
- インド・コスモニケタン学園のサトウキビ・プロジェクト
- JAFS のセミナーから一途上国のごみの実情と国際環境協力
- 井戸寄贈報告
- JAFS プラザ 国内の活動
- イベントカレンダー
- 新入会員紹介・領収報告
- 「活躍するアジア」
- 環境コラム、編集後記

◆152号 2023年1月発行 (32ページ、4,300部)

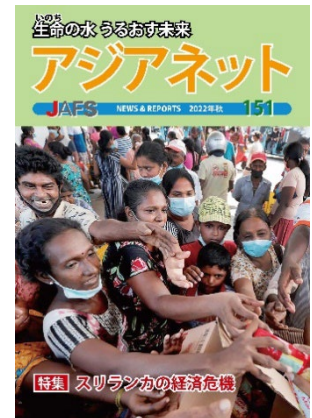
- 表紙写真 日本に住む外国人の子どもに日本語を教える「日本語サポート」活動
- 巻頭言 貧困なき世界を目指して
- 特集 日本に住む外国人の子に日本語を教える
- 日・ポ友情のウクライナ支援オークション
- ウクライナ難民へ多くの皆さんから寄付
- バングラの小学校に衛生的なトイレ建設
- クーデターのミャンマー民主化へ連帯を
- 3本の柱でスリランカの困窮者支援
- 鉛筆とノート売って環境を保全
- 第3回日本語スピーチコンテスト
- 2年目のブルーオーシャン作戦
- 井戸寄贈報告
- JAFS プラザ 国内の活動
- イベントカレンダー
- 新入会員紹介・領収報告
- ネパール「朝日読者の森」の20年②
- 環境コラム、編集後記

◆153号 2023年4月発行 (28ページ、4,300部)

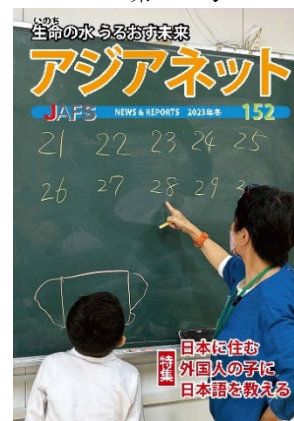
- 表紙写真 JAFS 会員が寄贈して完成した井戸から水を飲む少女
- 巻頭言 貧しくも明るい子らに惹かれて
- 特集 第2回 JAFS「水」写真コンテスト
- コーヒー豆をネパールの特産に
- 災害に強いネパール作ろう
- ウクライナの病院再建に奔走
- フィリピンの台風 復興支援報告
- 「学びたい」フィリピンの子もたち
- パキスタン授業に興味津々
- JAFS のセミナーから一内モンゴル光と影
- 井戸寄贈報告
- 走ってチャリティ 大阪マラソン
- JAFS プラザ 国内の活動
- イベントカレンダー
- 新入会員紹介・領収報告
- 「活躍するアジア」
- 環境コラム、編集後記



第150号



第151号



第152号



第153号

## (2) ホームページ/SNS

ホームページでは、年4回発行の会報よりも細かな時間スパンでタイムリーに情報を発信した。特に本会のイベント情報やニュース、寄付募集など、発信に迅速性を要する記事を逐次掲載した。本会と未だ接点がない人も情報に触れる可能性を持つホームページの特性を活かし、本会の活動状況を広く知ってもらうことにより、新規の会員・寄付者・イベント参加者の獲得にも貢献した。

また、フェイスブックやインスタグラムなどの SNS や YouTube によっても、本会の活動状況、ニュースやイベント情報などを、随時発信した。

<ホームページ> <https://jafs.or.jp>

<フェイスブック> <https://www.facebook.com/JAFS.NGO>

<インスタグラム> [https://www.instagram.com/jafs\\_ngo/](https://www.instagram.com/jafs_ngo/)

<YouTube>

<https://www.youtube.com/channel/UCIlg56EEmMuMIFJyvRHxuEuQ/featured>

## 4. プロジェクト支援会 (ファミリーグループ)

### (1) ぞうすいの会

(風早茂都子)

「ぞうすいの会」の「ぞうすい」は、「雑炊」「増水」「贈水」の意味をかねている。質素な雑炊をとることで自分たちの過食や健康を見直すとともに、「ぞうすいの会」への参加費を積み立てて、アジアの人々に井戸などを贈り、衛生的な水の供給を行ってきた。例年、毎

月1回(年間11回※8月休み)開催してきた。昨年度はコロナ禍のため4回しか開催できなかったが今年度は通常開催した。JAFS スタッフやゲストスピーカーから各国でのプロジェクトや各国の文化などについてのお話を聞きながら、季節の香り高い雑炊をいただいている。今後も、会員のみなさまの深いご理解と温かいご支援を得ながら継続していきたい。

- 4月12日 第390回  
 スピーカー:熱田典子副事務局長  
 ネパール報告  
 参加11名
- 5月10日 第391回  
 スピーカー:在日29年のマホムット・ジャケルさん  
 バングラデシュのお話  
 参加13名
- 6月14日 第392回  
 スピーカー:鳥居京子スタッフ  
 6月5日開催の夢基金・醤油蔵コンサート報告  
 参加10名
- 7月12日 第393回  
 スピーカー:カンボジア人留学生  
 ソーン・デビットさん  
 カンボジアのお話  
 参加11名
- 9月13日 第394回  
 スピーカー:ウクライナ人 リリアさん  
 ウクライナの現状について  
 参加11名
- 10月11日 第395回  
 スピーカー:第1回日本語スピーチコンテスト最優秀  
 賞受賞者 アグンさん  
 インドネシア人留学生の就職指導  
 参加9名
- 11月8日 第396回  
 スピーカー:柿島裕事務局次長  
 第3回日本語スピーチコンテスト報告  
 参加10名
- 2023年  
 1月17日 第397回  
 スピーカー:熱田副事務局長  
 ネパール報告  
 参加11名
- 2月14日 第398回  
 スピーカー:天野紀ボランティアスタッフ  
 ネパール防災視察報告  
 参加11名
- 3月14日 第399回  
 スピーカー:岡本佳子スタッフ  
 カンボジア井戸建設報告  
 参加11名

## (2) アジア井戸ばたサロン

(代表 澤村和子 顧問 小原純子)

『1990年「WINA2000」アジア国際女性会議』(小原純子JAFS副会長 企画実施)がインドネシアで開催された。これを機に1992年アジアの女性の地位向上に寄与するという目的で「アジア井戸ばたサロン」の活動を始めた。

「和」の心を基に、和紙を中心としたサロン独自の手作り作品、その他工芸品作りなどに力を入れ活動を続けている。作品も多彩となり成果を上げ、本年度も目的達成のために設立された「水

がめ基金」から「JAFS里親の会」に例年通りの支援をした。さらに毎年アジアで行われている「アジア国際ネットワークセミナー」(AINS)での参加者プレゼント用の手作り作品の製作を続けている。だが今年度も、昨年度に続くコロナ禍による自粛のため開催されず、残念ながら協力もできていない。そんな中ではありますが、作品作りで好評を得て喜ぶことに飾り入りの「箸袋」があります。希望を持って次に続けることができることを願っています。

### <活動>

- ペーパークラフトを主に手作り工芸品の製作  
 (季節のカード・色紙・メモ帳・箸袋・香袋など)
- ・毎週水曜日 午後1時～3時

## (3) スリランカ・サルボダヤ友の会

(代表 小澤 勇)

スリランカ現地提携団体 NGO「サルボダヤ」との絆を深め、農村開発運動を支援し活動の輪を広げることを目的とする。スリランカを知り、楽しむイベント・講座等を開催や、活動支援のためバザー等に出展し、様々なボランティア活動をおこなっている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動が制限されたが、メール等で情報を共有し、農村開発活動とともに10基目となる井戸の寄贈や植林のプロジェクトを支援した。

## (4) 日印友好学園支援会

(支援会会長 柏木道子) 支援会メンバー9名

2022年度は、日印友好学園コスモニケタンの運営を引き続き支援した。コロナ禍で、学園は経営危機に直面したため、運営主体であるBSVIAはサトウキビ栽培で持続可能な収益を得て、学園の経営に資することにした。そこで支援会として協力することにして栽培に必要な費用の募金活動を行った。皆様のご協力を得て目標の120万円の寄付が集まったことは感謝である。支援会の会合はオンライン参加も含め3回実施した。

## (5) JAFSネパールへのかけ橋

(代表 岡田光浩 書記 渡辺治彦)

ネパールをこよなく愛する者を参加資格とし、JAFSのネパールでの活動の支援を目的とし2000年に発足する。

活動のテーマは、「ネパールの子供たちの支援」。2003年度より、冬季ワークキャンプ(バイオガス建設ワークキャンプ)の自主活動を継続し、バザーによる資金調達・現地でのボランティアワークなどを行ってきた。原則として、毎月1回(第2土曜日17時～)例会を行ってきた。今年度の活動内容は以下の通り。

今年度の活動内容は、ネバ橋結成20周年に伴う、各種イベントの実施とネパールのコロナ支援のためのチャリティーCD「MAYA JAND(ネパールバンド:KUTUMBA&サクセス奏者:清水利香)」の販売支援のためのチャリティーコンサート実施と、多文化フェスティバルなどのバザーの出店により10万円程度の収益があり、ピトゥリ村学校建設のための資金とすることができました。

また、継続的支援として里親の会を通して、ピトゥリ村の元里子で身体障害をもつフルマヤさんの自立支援を実施しています。次年度も、皆さんに楽しんでいただけるようなイベントの企画と栄養士育成のために来日しているネパール人メンバーのサポートや交流を実施し、広くネパールに興味を持っていただけるように、引続き魅力ある活動となるように検討を進めていきたい。

4月15日	ネパール留学生歓迎会 (25名程度)
4月16日	例会 Zoom会議 (8名)
5月 5日	ネパ橋パーティー 西浦宅(18名)
6月18日	例会 (5名)
7月 9日	例会 (7名)
8月20日	例会 (5名)
9月10日	例会 (4名)
9月23日	ネパ橋チャリティーコンサート&集いの会
10月15日	例会 (5名)
11月19日	寝屋川多文化フェスティバル出店
11月26日	例会 (4名)
11月27日	枚方多文化フェスティバル出店
12月10日	例会・アジフェス出店(6名)
1月17日	例会・新年会 (11名)
2月18日	例会 (7名)
2月26日	大阪マラソン応援 (8名)
3月11日	例会 (5名)

## (6) PAON

(代表 谷阪洋子)

アジア家庭料理教室の参加者の中から有志のメンバーが集まり、料理を活かしたボランティア活動をおこなっている。アジア各地の料理を通じて、各地域の文化を体験・理解することと、その活動の中で、必要とされる支援をおこなっていく事を目的としている。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、飲食に関する活動は制限されたが、アジアで安全な飲料水を必要としている地域への支援を目標に活動した。

## (7) JAFS オアシス会 (中国教育医療支援会)

(代表 ジャミラ ウライム)

オアシス会はアジアの中に“理解と協力で連帯”の輪を広げるといふ JAFS 基本理念をすすめていくために、シルクロードを中心に相互の国の文化や歴史を学び、お互いに尊重し、理解し合う場を創り出すことを目的とする。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動が制限されたが、メール等で情報共有・意見交換をおこなった。

## (8) アジアネットワーク奨学会

(代表 古賀 旭)

アジアネットワーク奨学会は、専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく貢献するとみなされる若手の人材育英資金(奨学金等)を支給するための支援会である。2022 年度は、インドの現地提携団体の HDSI の後継者である Mr. Gaius Thorat のナグプール大学社会開発学科で学べるよう支援をおこなった。

## (9) ネパール子ども夢基金

ネパールのこどもたちが「夢」そして「希望」のあふれた未来作りができるよう、様々な体験を通じた成長を目指す子どもたちの教育支援。支援者を募ると共に、子ども環境の大切さを伝えることをめざし、リサイクルノート作成のための協力を行った。

## (10) ネパール地域医療支援会

(担当理事:小原純子副会長)

ネパールの農村エリアの地域医療向上及び母子保健向上をサポートする支援会。山間地の女性たちの生理用布パッドを手作りで作る活動を引き続き実施し、新型コロナの感染状況を見ながら事務局でまた自宅などでの作成によりネパールで現地の女性にナプキン作成講習会を実施できる準備を行った。支援金のために引き続きプルトップ回収をおこなった。

## (11) JAFS パンダン交流会

フィリピン アンティケ州パンダン町の飲料水支援事業を契機に、つながったパンダン町民との継続交流及び、その機会に知り合った障がい者の人たちとの支援・交流を継続することを目的に活動。コロナ禍でも活動できるよう、職業訓練等を支援した。

## (12) JAFS バーラト会

(代表 巽 正憲)

2022 年

- 4月19日 バーラト会例会 (4名)  
「バーラト」No.73 インド僧「菩提僊那」について
  - 4月30日 ギータンジャリの会でインド国歌を歌う
  - 5月17日 バーラト会例会 (5名)  
「バーラト」No.74 仏教は人々を幸せにできるのか
  - 6月21日 バーラト会例会 (5名)  
「バーラト」No.75 日印友好の歴史、お勧めインド料理店
  - 7月19日 バーラト会例会 (6名)  
「バーラト」No.76 世界人口 11月に80億人、インド来年中国抜く。
  - 8月休み
  - 9月20日 バーラト会例会 (5名)  
「バーラト」No.77 日印国交樹立 70周年記念号  
在日インド人、日印貿易、在留邦人数等
  - 10月18日 バーラト会例会 (5名)  
「バーラト」No.78 ヒンズー教について、その歴史、神々、儀式等
  - 10月10日 神戸インディアンメーラーで勧誘のピラ配り
  - 10月30日 インディアン祭り京都で勧誘のピラ配り
  - 11月15日 バーラト会例会 (5名)  
「バーラト」No.79 [日本文化の中のインド](アジア市民大学で発表予定)  
イギリス首相にインド人スナク氏
  - 12月20日 例会、忘年会中止  
「バーラト」No.80 一年間のまとめ LINE 配信
- ※12月より参加者減少のため、1年間活動中止。  
LINEで「バーラト」配信、随時情報交換あり、勧誘活動は継続。
- 2023 年
- 1月28日 JAFS 市民大学で「日本の文化の中のインド」巽が発表、バーラト会勧誘。
  - 3月15日 JAFS 国際理解文化交流委員会で岡本さんに2022年度のバーラト会報告書を提出

### (13) JAFS 歌声サロン

(代表 風早茂都子 演奏 鳥居京子)

ピアニスト鳥居京子の生伴奏をバックに、その場でリクエストをし、好きな歌を歌い、腹式呼吸法で健康増進にもなる。日頃のストレスを発散しながら、国際貢献をする自主活動グループ。

2023 年

3 月 17 日 カラオケ大会 場所: 東大阪石切 参加者: 7 名

### (14) JAFS いのちの会 枚方

(代表 明見睦子)

インド タミルナドゥ州の HIV AIDS に苦しむ1家族への支援をおこなった。

### (15) 留学生コミュニティ

~Design the Community~

留学生と日本の学生が交流し、互いに支え合うことができる社会、コミュニティを目指して Design the Community を 11 月 1 日に設立。

留学生に日本社会の情報を手軽に、日本人に国内にいる留学生の存在、情報を手軽に得ることができるようインスタグラムを通して情報発信している。

活動を進めていく中で、外国にルーツがある子どもたちの問題に直面した。現在は、外国にルーツがある子どもたちのサポート、チームづくりへ活動を移行中。

### (16) JAFS 歩く会 “道楽の集い”

(代表 石原 基義 大本 和子)

2021 年4月、会員有志によりアジアフレンドシップ夢基金の支援会として“道楽(道を楽しむ)の集い”通称 JAFS 歩く会を発足する。2022 年度は計 9 回開催。参加人数延べ 94 名の参加費及び寄付を歩く会から JAFS のアジアフレンドシップ夢基金に支援することができました。

### (17) JAFS ハルハロ有志会

(代表 橋本 末子)

ハルハロの活動は、1992 年 10 月に発足し 2014 年月に一旦区切りをつけたが、活動中に教育里親支援をしていたフィリピンのマリー アンさんの大学進学希望を受けて、支援を行うことを決定。マリーアンさんの大学での学びを見守ると共に有志メンバーの交流を行いながら、奨学金支援を行った。

5 月 10 日 ウクライナ支援 チャリティーコンサート 実行委員会

5 月 22 日 瀬田敦子 さん ウクライナ避難者 支援 チャリティーコンサート in 宝塚

10 月 28 日 フィリピン 大学奨学生にメッセージ送る。

2023 年 1 月 13 日 ハルハロ新年会

奨学生に年賀カードでメッセージ送付

事業の内容: 次世代に残す自然文化(京都市南丹市美山町にある「美山楽舎」の活用、新淀川河川敷での環境活動(しじみ採り)などを通じて、地方の活性化、都市部の青少年の育成を行うことを目的とする。

#### (1) 自然環境保全事業

内容: 本年度の活動は、コロナ禍のため会員及び一般に呼かけて実施することは制限された。

#### (2) 保有・管理財産活用事業

内容: 京都府南丹市に保有する「美山楽舎」の土地・建物を会員及び一般に有料で貸し出し、築 160 年の古民家、周辺の圃場での体験を通してナショナル・トラスト運動の意味を考えてもらう。

#### (3) 農林漁業生産支援事業

内容: 農山村地域の行事に積極的に参加する予定であったが、本年はコロナ禍のため、集まることは制限されました。

●6 月 3 日 KANTA 総会 場所: JAFS 参加者 7 名

総会で代表が鳥居京子に決定しました。

●9 月 11 日 KANTA 理事会 場所: 美山学者 参加者: 7 名

●11 月 2 日 KANTA 理事会 場所: 美山学者 参加者: 7 名

●11 月 27 日 そば打ち体験 場所: 美山 参加者: 10 名

## (2) 日本を良くする会 (Make Japan)

(代表: 萩尾千里、大阪グループ代表幹事: 橋口高明)

本会の国際協力フィードバック事業の一環として、本会会員有志が主催する市民の会。活動目的は、「世界から尊敬されかつ信頼される国(社会)づくり」。日本の望ましい社会像、あるべき人間像を求めて、以下の諸活動に参加する創造的市民の会を目指している。発足は 2006 年 12 月。

<2022 年定例会>

新型コロナウイルス感染症の影響により例会等の活動を中止した。



道楽の会 御室仁和寺ウォーク

## 5. 関連市民活動

### (1) 関西ナショナル・トラスト協会

(代表 鳥居 京子)



## IV-B. 環境保全・環境教育（国際グリーンスカウト活動）

### （１）土と水と緑の学校

次世代の子どもたちが、地球の基本である土、水、緑の自然の大切さ・役割を体で感じ取って学ぶ自然環境教育プログラム。山と川と海に囲まれた和歌山県新宮市高田で、子どもたちがリーダーと共に各寺子屋を5泊6日で例年開催し、今年は「第37回土と水と緑の学校」を2022年8月に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため昨年度に続いて中止した。

### （２）各部会活動

国際グリーンスカウト運動とは「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全活動」を目指す本会提唱のプログラムである。AFSの海外ネットワーク(インド、スリランカ、フィリピン、ネパール、タイ)を通じて国際的に展開している。国内でも、このモットーに基づき、各地でグリーンスカウト隊が活動を行なっている。

### ◆国際グリーンスカウト吹田◆

(主なメンバー:杉原貴、雨森清忠、越智久美子)

地球規模で環境保全を考え、そのために自分たちの住む地域で出来ることをやっというグリーンスカウトの理念を実現するために、2001年に京都府美山町で行われたグリーンスカウトの国際大会で知り合ったメンバー同志で活動チームを結成。環境保全活動およびその教育の持続と実行のため、2003年より毎月第1土曜日に吹田市の糸田川の清掃を月1回行っている。2004年より2022年3月までのゴミの総量は2,379kg、延べ参加人数869人。

2003年より、毎年7月には子どもたちを連れて無人島でキャンプを行っているが今年は新型コロナウイルス感染リスクを考慮し、中止とした。

<糸田川清掃、環境保全活動>

毎月一回、基本的に第一土曜日に実施。

参加人数は3～5人。

2022年度実施日:4月2日5.5キロ、5月7日2.5キロ、6月4日6キロ、7月2日5キロ、8月6日2キロ、9月3日5.5キロ、10月1日6キロ、11月5日5キロ、12月3日4.5キロ、1月14日8.5キロ、2月4日2キロ、3月4日4.5キロ 計12回活動計57キロのゴミを収集した。

### ◆AFSブルーオーシャンレンジャー◆

プラスチックごみを始めとするごみ問題が、各地域の生活環境を不衛生にするのみならず、地球規模でも海洋プラスチック汚染など大きな環境問題になっており、また海洋へのプラスチック流出量上位には、アジアの国々が多く入っている。この現状の中、AFSネットワークを生かして、日本を含むアジア諸国が共にごみ問題に取り組む「AFSブルーオーシャンレンジャー」活動を行っている。

4月16日には国内16都道府県の海辺で、計約230人がプラスチックごみを拾い、オンライン交流した。

11月19日には、大阪(約140人)と東京(約50人)、フィリピンのソルソゴン州マトノグ周辺の3村(約500人)、インドネシアのバリ島(約50人)の3カ国6地域で、同日に海辺などのクリーン活動を行った。当日活動後にはオンライン交流を行い、各地域の活動

の様子を、国を越えて動画や写真で紹介し合うことにより、相互に刺激を受け活動意欲を高めた。



糸田川の清掃を終え、その日のゴミの前で(GS吹田)



大阪・二色の浜で、打ち上げられた小さなプラスチック片を拾う  
(AFSブルーオーシャンレンジャー)



ネパールへのかけ橋 チャリティCDリリースコンサート





第3回日本語スピーチコンテスト受賞者



社員クラブ参加者一同



アジア市民大学王少鋒講師の回の様子



法人賛助会 日本銀行 高口大阪支店長による卓話&交流会



地域活動推進のための地区長会開催



第1回「水」写真コンテストの展示会



第2回「水」写真コンテスト 阪急百貨店にて開催



大阪マラソン チャリティランナー出発前





なにわ南地区会第1回ノアフェスタ



高槻地区会 コスモニケタン学園支援インドカレー懇談会



京都地区会チャリティウォーク 新選組ゆかりの地京都・壬生を歩こう



寝屋川地区会9月NPOフェス展示出店



枚方地区会 NPO フェス出展



三田地区会 国際交流フェスタ出展



第5エリアチャリティコンサート



北河内緑とふれあう会活動の様子 サツマイモと枝豆収穫

## V. 運営管理

### V-A. 社員総会

公益社団法人アジア協会アジア友の会第11回社員総会を下記の通り開催した。定款第16条の定めにより湯川理事長が議長となり議事を進行した。現在の社員数192名の内、出席社員数147名（当日出席者・議決権行使提出者の合計）で、定足数97名を充足し総会が適法に成立していることを宣した。

日時：2022年6月11日(土)14時～15時30分

会場：大阪科学技術センター（大阪市西区）

議案：I. 決議事項

第1号議案『役員の選任』の件

第2号議案『2021年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、同附属明細書及び財産目録の承認』の件  
上記の決議事項に関して、異議なく承認された。

議案 II. 報告事項

- ① 2021年度事業報告並びに同附属明細書について
- ② 2022年度事業計画について
- ③ 2022年度収支予算書について

### V-B. 役員一覧

役職	氏名	経歴
会長	篠原 勝弘	公益財団法人 CIESF 理事兼相談役、カンボジア代表、元 駐カンボジア特命全権大使
理事長	湯川 剛	株式会社 OSG コーポレーション 代表取締役会長・CEO
副会長	小原 純子	(一財) 大阪市男女共同参画のまち創生協会 前理事長、現名誉顧問
	櫻井 紘哉	元 株式会社三和銀行 管財部長
	法花 敏郎	元 朝日ビルディング 社長
専務理事	村上 公彦	日本基督教団 寝屋川教会 牧師（本会創設者）
常務理事	吉田 俊朗	元 ユニチカ株式会社 監査役
理事	熱田 親憲	NPO 法人ネパールロードを支える会 理事長
	池田 直樹	弁護士法人あすなろ 弁護士
	市川 晃	税理士法人 AN d 代表社員 税理士
	井上 勇一	日本基督教団洛南教会 教師（牧師）
	上野 孝一	社会福祉法人寝屋川十字の園 理事
	沖田 文明	(特活) 関西ナショナル・トラスト協会 副代表理事
	金井 英夫	元 IBM-Japan コンサルティング事業部 次長
	暮部 恵子	株式会社クレコス 代表取締役会長 商業界近畿女性同友会 会長
	栗村 壽子	有限会社天王寺英数学院 代表取締役



	齋藤 公代	元 大阪北生協機関紙むつみ・タウン誌ライブタウン 編集長
	坂口 久代	関西イタリア語文化センター 代表
	佐藤 正隆	リタワークス株式会社 代表取締役、コングラント株式会社 代表取締役
	佐野 光彦	神戸学院大学総合リハビリテーション学部 准教授
	實 清隆	奈良大学 名誉教授
	木 泰輔	エーゼル株式会社 代表取締役
	鳥居 建十	環境技術建設株式会社 代表取締役
	永島 智子	イオングループ労働組合連合会 会長
	西田 貞之	有限会社西田興産 会長 元大阪府職員
	端無 勝	株式会社デュアルエデュケーション 代表取締役
	福澤 邦治	パナソニックグループ労働組合連合会 中央執行委員長
	藤原 正昭	行岡保健衛生学園 顧問
	松原 正	株式会社かんぼう 代表取締役
	宮川 眞一	医療法人篤友会 牧病院 診療部長・心療内科部長
	宮野谷 篤	株式会社NTT データ経営研究所 取締役会長、元日本銀行理事大阪支店長
	柳井 一朗	日本基督教団 洛西教会主任担任教師（牧師）
	米田 明正	株式会社グローアップ 代表取締役
	渡辺 治彦	株式会社 関電システムズ システムアーキテクト
監 事	出口 貴之	株式会社宝屋 代表取締役
	毛利 吉男	株式会社カステロ 代表取締役
	山下 泰之	元 東邦金属 株式会社 常勤監査役

理事 34 名 監事 3 名 (2023 年 3 月 31 日現在)



第11回社員総会

本会の事業・活動は、理事会及び各常置委員会によって管理・運営されている。2022年度における理事会、各委員会の開催状況は以下の通り。

#### V-C. 理事会

(議長:篠原 勝弘会長 櫻井紘哉副会長)

理事会: 5/24、6/11(臨時)、9/17、12/17、3/18 (計5回開催)

4月19日 常任理事業務連絡会 開催

#### V-D. 常置委員会

##### I. 公益目的事業 I 開発支援事業委員会

2022年度は、開発支援事業の進捗状況の確認、課題提示、プロジェクト評価、報告などを実施。2023年度新規事業の審議を実施。

委員長:福澤邦治理事

担当委員:米田明正理事(水事業担当)、齋藤公代理事(子ども・アジア里親の会担当)、宮川眞一理事(子ども事業担当)、小原純子副会長(環境事業担当)、櫻井紘哉副会長(N 連関連担当)、渡辺治彦理事(ネパール担当)、柳井一朗理事(スリランカ担当)、寺西浩章理事(貧困対策事業担当)、鳥居建十理事(インド担当)、金井英夫理事(フィリピン担当)、佐野光彦理事(バングラデシュ担当)、森本榮三理事(カンボジア担当)

<事業内容>

1. 水事業
2. 子ども事業
3. 貧困対策事業
4. 環境事業

開催日:5月、9月、12月、2月 計4回実施(加えて担当毎の理事との会議を随時実施)

##### II. 公益目的事業II 国際交流事業委員会

国際交流事業の進捗状況の確認、報告などを中心に行なった。各事業ごとに実行委員会を持ち、円滑にプログラム運営を実施。

委員長:西田貞之理事

夢基金担当:坂口久代理事

国際ネットワーク担当:小原純子副会長

国際基金担当:櫻井 紘哉副会長

海外人材育成担当:端無勝理事

国内人材育成担当:熱田親憲理事

国際奨学金担当:上野孝一理事

国際交流企画担当:法花敏郎副会長

アドバイザー:宮野谷篤理事

實 清隆理事

<事業内容>

1. 人材交流・育成事業
2. ネットワーク推進事業(アジア国際ネットワークセミナー、ユースサミット)
3. アジア・フレンドシップ夢基金

開催月:10月、12月、2月、3月 計4回

##### III. 公益目的事業III 生活支援事業

今年度事業内容であった以下1~4の支援事業進捗状況や対応について協議。特にウクライナ支援を国内避難民に対して行うことなどを5月に決定し活動を進めることとなった。年度途中フィリピンでの台風被害に現地よりの緊急支援依頼を受け支援に関して協議した。その他、ネパール防災事業、ウクライナ保健支援事業の実施を行うことを決めた。

委員長:松原 正理事

委員:市川 晃理事(基金担当)、暮部恵子理事(国内担当)、藤原正昭理事(海外担当)

<事業内容>

1. 災害等罹災者支援事業(緊急支援対応基金)
2. ネパール地震復興支援
3. フィリピン台風被害者支援
4. コロナ困窮者支援
5. ウクライナ支援(国内)
6. ネパール防災事業
7. ウクライナ保健支援事業

開催日 9月、12月、3月 計3回実施 (加えて担当毎理事との会議を随時実施)

##### IV. 公益目的事業IV 普及啓発事業

事業項目別に担当理事を中心に委員会が開催された。

<事業内容>

1. 広報企画委員会(法花敏郎委員長)  
会報アジアネット誌企画・編集を中心に開催。  
開催月:4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、2023年1月、2月、3月 計12回開催
2. 会員拡大・地域活動推進委員会  
地区世話人とともに活動していく仲間(会員)の輪を広げる活動を推進した。  
委員長:米田明正理事  
地域活動計画担当:渡辺 治彦理事  
社員会員担当:上野孝一理事  
維持会員担当:鳥居建十理事  
賛助会員担当:齋藤公代理事  
団体会員担当:西田貞之理事  
ジュニア会員担当:柳井一朗理事  
会員拡大・地域活動推進委員会:  
開催月:9月2回、11月、12月、1月、2月 計6回  
地区会長会:1月
3. 企画事業委員会  
住道バザーは雨天、土と水と緑の学校は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。第7回アジア・チャリティ・フェスティバルは12月10日に大阪国際交流センターにて開催した。  
委員長:沖田文明理事  
企画事担当:沖田文明理事  
青少年活動担:鳥居建十理事  
開催月:4月、5月、7月、9月 計4回
4. 国際理解・文化事業委員会  
アジアを身近に感じ理解し、活動を応援する人々の育

成と支援の輪を広げる活動を推進した。

委員長(業務調整統括)	實清隆理事
異文化理解講座担当	實清隆理事
地球市民講座担当	小原純子副会長
留学生担当	藤原正昭理事
在留外国人担当	坂口久代理事
アドバイザー	熱田親憲理事
	♫木泰輔理事

開催月:5月、9月、12月、3月

#### 5. SDGs活動委員会(暮部恵子委員長)

①会員及び一般に JAFS の活動を通して、SDGs への理解と SDGs の精神の普及、2030 年の目標達成にむけてより多くの活動の実施。

②会員活動、地域活動、自主活動において、様々な SDGs に貢献する事業が企画され実施される。

③SDGs を通して法人会員、法人サポーターの拡大。

④教育セクターに対して、SDGs を通した開発教育の推進と学校活動とのコラボレーション。を目指して活動。

実施委員長 暮部恵子理事

法人担当:松原 正理事

普及活動担当:佐藤正隆理事

学校・教育機関担当:佐野光彦理事

アドバイザー:宮野谷 篤理事

開催月:9月、12月、3月 計3回実施(担当毎の会議を随時実施)。

## V. 特別委員会

### 1. 政策審議委員会

本会の活動方向性の考察を目的に開催する JAFS フォーラムの企画について委員会にて協議し、第1回 JAFS フォーラムを2月23日に開催した。

委員長:宮野谷篤理事

委員:井上勇一理事、柳井一朗理事

開催月:9月、11月、12月、2月、3月 計5回実施。

### 2. 経営企画戦略委員会

40周年記念のビジョン委員会で協議し、中期計画として採択された、次なる10年の活動ビジョンを実行する共に、その戦略案を作成し、より良い経営につなげることを目的とした活動。世界水の日になんだ「水」写真コンテスト、大阪マラソンを通じての認知広報展開を行う。

委員長:米田明正理事

ビジョン・事業担当:小原純子副会長

職場環境整備担当:♫木泰輔理事

業務改善担当:佐藤正隆理事

マーケティング PR 担当:端無 勝理事

アドバイザー:湯川 剛理事長、池田直樹理事

開催月:8月、12月、3月 計3回開催

## VI. 法人管理部門

総務財務委員会

委員長:櫻井紘哉副会長

1. 総務兼法人賛助会担当 櫻井紘哉副会長
2. 財務担当 上野孝一理事
3. 法務担当 池田直樹理事
4. 渉外担当 小原純子副会長
5. 広報担当 法花敏郎副会長
6. 会員担当 米田明正理事
7. 労務担当 金井英夫理事
8. 庶務担当 吉田俊朗常務理事
9. ガバナンス担当 富松英二顧問
10. 業務統括・事務局 村上公彦専務理事

開催月:原則として8月を除き毎月開催、計11回。

・当会規程の整備(倫理規程、公益通報者保護に関する規程、利益相反防止に関する規程、リスク管理規程、コンプライアンス規程)

・アカウンタビリティセルフチェック(ASC)2021(国際協力 NGO センター提供の診断ツール)を実施し、認証を得た

### 【事業報告の付属明細書】

2022年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので、これを作成しない。

以上



第11回定期総会 役員中心での人数制限により実施



9月に実施の理事会の様子